

SUSE Linux Enterprise Desktop

11 SP2

www.suse.com

2011 年 10 月 18 日

GNOME ユーザガイド



GNOME ユーザガイド

Copyright © 2006– 2011 Novell, Inc. and contributors. All rights reserved.

この文書は、GNUフリー文書ライセンスのバージョン1.2または(オプションとして)バージョン1.3の条項に従って、複製、頒布、および/または改変が許可されています。ただし、この著作権表示およびライセンスは変更せずに記載すること。ライセンスバージョン1.2のコピーは、「GNUフリー文書ライセンス」セクションに含まれています。

Novellの商標については、商標とサービスマークの一覧<http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html>を参照してください。*LinuxはLinus Torvalds氏の登録商標です。他のすべての第三者の商標は、各商標権者が所有しています。商標記号(®、™など)は、Novellの商標を表しています。アスタリスク(*)は、サードパーティの商標を表します。

本書のすべての情報は、細心の注意を払って編集されています。しかし、このことは絶対に正確であることを保証するものではありません。Novell, Inc.、Suse Linux Products GmbH、著者、翻訳者のいずれも誤りまたはその結果に対して一切の責任を負いかねます。

目次

このガイドについて	vii
パート I 序文	1
1 GNOMEデスクトップの開始	3
1.1 ログインとデスクトップの選択	3
1.2 ログアウト	6
1.3 デスクトップの基礎知識	7
2 デスクトップの使用	15
2.1 メインメニューの使用	15
2.2 Nautilusを使ったフォルダとファイルの管理	19
2.3 リムーバブルメディアへのアクセス	25
2.4 ファイルの検索	26
2.5 アプリケーション間のテキストの移動	31
2.6 インターネット接続の管理	31
2.7 インターネットの探索	31
2.8 電子メールとスケジューリング	32
2.9 LibreOfficeでのドキュメントのオープンまたは作成	33
2.10 デスクトップの電源管理	33
2.11 アーカイブの作成、表示、および解凍	38
2.12 スクリーンショットを撮る	43
2.13 PDFファイルの表示	44
2.14 サウンドの制御	45
2.15 指紋リーダーの使用	46
2.16 ソフトウェアアップデートの取得	46
2.17 詳細情報	47

3	設定のカスタマイズ	49
3.1	コントロールセンター	50
3.2	ハードウェア	52
3.3	外観	60
3.4	個人用	80
3.5	システム	81
4	支援技術	89
4.1	支援技術の有効化	89
4.2	一般的なアクセス性機能	90
4.3	動作の障害	92
4.4	Orca	95
	パート II GNOME ユーザガイド	97
5	ネットワークリソースへのアクセス	99
5.1	ネットワークに接続	100
5.2	ファイル共有とネットワーク参照に関する一般的な注意	100
5.3	ネットワーク共有へのアクセス	101
5.4	フォルダの共有	103
5.5	Windowsファイルの管理	104
5.6	Windowsネットワークプリンタの設定とアクセス	106
6	Beagleを使った検索	107
6.1	Beagleの使用	107
6.2	検索のヒント	109
6.3	Property Search(プロパティ検索)の実行	110
6.4	検索の環境設定	112
6.5	他のディレクトリのインデックス作成	114
6.6	ファイルとディレクトリにインデックスをつけない	116
6.7	インデックスするデータソースの選択	116
6.8	Beagleの無効化	117
6.9	詳細情報	117
7	プリンタの管理	119
7.1	プリンタのインストール	119
7.2	プリンタ設定の変更	121
7.3	印刷ジョブのキャンセル	121
7.4	プリンタの削除	122

8 ユーザデータのバックアップ	123
8.1 バックアップの作成	123
8.2 データの復元	125
 A GNU Licenses	 127
A.1 GNU General Public License	127
A.2 GNU Free Documentation License	130

このガイドについて

このマニュアルは、SUSE® Linux Enterprise Desktopに実装されているGNOMEのグラフィカルなデスクトップ環境の概要と、個人の使用目的に合った環境設定の方法について説明しています。複数のプログラムとサービスについても紹介します。Macintosh*、Windows*、またはその他のLinuxデスクトップなどのグラフィカルデスクトップ環境の使用経験を持つユーザを対象としています。

このマニュアルは2つの部分に分かれています。

はじめに

GNOMEデスクトップの概要と基本的な作業手順、および主なGNOMEアプリケーションやユーティリティの使用方法を説明しています。ユーザのニーズや目的に基づいてデスクトップを変更したり個人設定するためにGNOMEに用意された機能の概要について説明しています。視覚や運動面で障害をお持ちの方は、支援技術を利用してアクセシビリティを高めることができます。

GNOME ユーザガイド

ネットワークでのファイル共有方法、統合コラボレーション環境の使用方法、データの効果的な検索方法、プリンタの管理方法、データのバックアップ方法など、データの管理と交換に関する重要な情報を提供しています。

このマニュアル中の多くの章に、他の資料やリソースへのリンクが記載されています。これらの資料の中には、システムから参照できるものもあれば、インターネット上に公開されているものもあります。

ご使用の製品に利用できるドキュメントおよび最新のドキュメントアップデートの概要については、<http://www.suse.com/documentation>または後続のセクションを参照してください。

1 利用可能なマニュアル

これらのガイドブックは、HTMLおよびPDFの各バージョンを複数の言語で提供しています。この製品については、次のユーザー用および管理者用マニュアルがあります。

KDE User Guide (↑*KDE User Guide*)

SUSE Linux Enterprise DesktopのKDEデスクトップについて説明しています。デスクトップの使用および設定方法と、キータスクの実行方法を説明します。主に、KDEをデフォルトのデスクトップとして効率的に使用したいと考えるユーザ向けです。

GNOME ユーザガイド (1 ページ)

SUSE Linux Enterprise DesktopのGNOMEデスクトップについて説明しています。デスクトップの使用および設定方法と、キータスクの実行方法を説明します。主として、デフォルトのデスクトップとしてGNOMEデスクトップを効率的に使用したいと考えるエンドユーザ向けです。

アプリケーションガイド (↑*アプリケーションガイド*)

SUSE Linux Enterprise Desktopの主なデスクトップアプリケーションの使用および設定方法について説明しています。ブラウザ、E-mailクライアント、オフィスアプリケーション、コラボレーションツールについて説明しています。グラフィックとマルチメディアアプリケーションについても扱っています。

導入ガイド (↑*導入ガイド*)

単一または複数のシステムをインストールする方法および展開インフラストラクチャに製品本来の機能を活用する方法を示します。ローカルインストールまたはネットワークインストールサーバの使用から、リモート制御の高度にカスタマイズされた自動リモートインストール技術による大規模展開まで、多様なアプローチから選択できます。

管理ガイド (↑*管理ガイド*)

当初のインストールシステムの保守、監視、およびカスタマイズなど、システム管理タスクについて説明します。

Security Guide (セキュリティガイド) (↑*Security Guide* (セキュリティガイド))

システムセキュリティの基本概念を紹介し、ローカルセキュリティ/ネットワークセキュリティの両方の側面を説明します。製品固有のセキュリティソフトウェア(プログラムが読み込み/書き込み/実行の対象にするファ

イルをプログラムごとに指定できるNovell AppArmorなど)や、セキュリティ関係のイベント情報を確実に収集する監査システムを使用する方法を示します。

System Analysis and Tuning Guide (システム分析およびチューニングガイド)
(↑*System Analysis and Tuning Guide* (システム分析およびチューニングガイド))
問題の検出、解決、および最適化に関する管理者ガイド。ツールの監視によってシステムを検査および最適化する方法およびリソースを効率的に管理する方法を見つけることができます。よくある問題と解決、および追加のヘルプとドキュメントリソースの概要も含まれています。

Virtualization with Xen (Xenによる仮想化) (↑*Virtualization with Xen*(Xenによる仮想化))

ご使用製品の仮想化技術を紹介します。SUSE Linux Enterprise Serverでサポートされているプラットフォームのアプリケーションとインストールタイプに関するさまざまなフィールドの概要、およびインストール手順の簡単な説明について記載しています。

Virtualization with KVM (KVMによる仮想化)

SUSE Linux Enterprise ServerでのKVM (Kernel-based Virtual Machine)による仮想化のセットアップと管理について紹介します。libvirtまたはQEMUでKVMを管理する方法を学習してください。このガイドには、要件、制限事項、およびサポートの状態に関する詳細な情報も含まれています。

総合的なマニュアルに加えて、クイックスタートガイドも利用できます。

KDEクイックスタート (↑*KDEクイックスタート*)

KDEデスクトップとKDEデスクトップで起動するいくつかの重要なアプリケーションについて、簡単に紹介します。

GNOMEクイックスタート (↑*GNOMEクイックスタート*)

GNOMEデスクトップとGNOMEデスクトップで起動するいくつかの重要なアプリケーションについて、簡単に紹介します。

OpenOffice.org Quick Start

LibreOfficeスイートと、そのモジュールで、テキスト書き込み、スプレッドシートの操作、グラフィックおよびプレゼンテーション作成のモジュールについて、簡単に紹介します。

クイックスタートのインストール(↑クイックスタートのインストール)
システム要件を一覧し、DVDまたはISOイメージからのSUSE Linux
Enterprise Desktopのインストールをステップごとに順を追って説明しま
す。

Linux Audit Quick Start (Linux監査クイックスタート)

監査システムを有効にし設定する方法と、主要タスク(監査ルールの設定、
レポートの生成、ログファイルの分析など)を実行する方法を簡単に説明しま
す。

Novell AppArmor Quick Start (Novell AppArmorクイックスタート)

Novell® AppArmorの背景をなす主要概念を説明します。

ほとんどの製品マニュアルのHTMLバージョンは、インストールしたシステ
ム内の/usr/share/doc/manualか、ご使用のデスクトップのヘルプセン
ターで見つけることができます。マニュアルの最新の更新バージョンは、
<http://www.suse.com/documentation>にあります。ここでは、製品の
マニュアルのPDFまたはHTMLバージョンをダウンロードできます。

2 フィードバック

次のフィードバックチャンネルがあります。

バグと機能拡張の要求

ご使用の製品に利用できるサービスとサポートのオプションについては、
<http://www.novell.com/services/>を参照してください。

製品コンポーネントのバグを報告するには、support.novell.com/か
らNovell Customer Centerにログインし、[マイサポート] > [サービス要
求] の順に選択します。

ユーザからのコメント

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについ
て、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインドキュメントの
各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか、または[http://
www.suse.com/documentation/feedback.html](http://www.suse.com/documentation/feedback.html)にアクセスしてコメ
ントを入力してください。

3 マニュアルの表記規則

本書では、次の書体を使用しています。

- `/etc/passwd`:ディレクトリ名とファイル名
- `placeholder:placeholder`は、実際の値で置き換えられます
- `PATH`:環境変数`PATH`
- `ls, --help`:コマンド、オプション、およびパラメータ
- `user`:ユーザまたはグループ
- `<Alt>`、`<Alt+F1>`:押すためのキーまたはキーの組み合わせ、キーはキーボードと同様に、大文字で表示されます
- `[ファイル]`、`[ファイル] > [名前を付けて保存]`:メニュー項目、ボタン
- *Dancing Penguins*(「*Penguins*」の章、他のマニュアル):他のマニュアルの章への参照です。

パートⅠ. 序文

GNOMEデスクトップの開始

このセクションでは、製品で提供されるGNOMEデスクトップの規則、レイアウト、および一般的なタスクについて説明します。

GNOMEは使いやすいグラフィカルユーザインタフェースであり、ユーザのニーズや好みに合わせてカスタマイズできます。このセクションではGNOMEのデフォルト設定について説明します。ユーザ自身またはシステム管理者がデフォルト設定を変更している場合は、外観やキーボードショートカットなど、いくつかの点が異なっている場合があります。

1.1 ログインとデスクトップの選択

コンピュータに複数のユーザアカウントが設定されている場合、特定のユーザに対して自動ログインが設定されていない限り、一般的にすべてのユーザが認証を受ける必要があります。自動ログインでは、システムの起動時にユーザがデスクトップ環境に自動的にログインすることができます。この機能は、インストール中、またはYaSTのユーザおよびグループ管理モジュールを使用すればいつでも有効または無効にできます。詳細については、第9章 *Managing Users with YaST* (↑導入ガイド)を参照してください。コンピュータがネットワーク環境内で稼働している場合に、そのコンピュータを利用する複数のユーザがいる場合は、システムの開始時にユーザ名とパスワードの入力を要求するプロンプトが表示されます。システムとユーザアカウントを自分で設定していない場合は、システム管理者にユーザ名とパスワードをお問い合わせください。

ログインプロセスを管理するプログラムは、システムにインストールされたデスクトップ環境によって異なります。**GNOME**の場合は**GDM**になります。**KDE**デスクトップがインストールされている場合は**KDM**になります。

GDMのログインウィンドウで、コンピュータをサスペンド、再起動、またはシャットダウンできます。ユーザ名とパスワードを入力し、それぞれの後に**Enter**を押して、システムにログインします。ログイン画面には複数のログインオプションがあります。たとえば、インターフェースに表示する言語を選択することができます。ログインする前のデスクトップのデフォルトを変更するには、パネルのメニューを使用します。

[言語] メニュー

セッションで使用する言語を選択します。

[キーボード] メニュー

セッションで使用するキーボードレイアウトを選択します。

[セッション] メニュー

セッション中に実行するデスクトップを選択します。他のデスクトップをインストールしている場合、そのデスクトップがリストに表示されます。

[ドメイン] メニュー

Active Directoryサーバに対して認証を受ける場合は、ログインする**Windows***ドメインを選択します。それ以外のすべての認証方法の場合は、**[ローカルログイン]**を選択します。

[表示設定] メニュー

ここでは解像度やリフレッシュレートなどの表示設定を変更します。

アクセスの初期設定

このメニューを使用して補助技術の使用を設定します。詳細については第4章 **支援技術** (89 ページ)を参照してください。

1.1.1 セッション管理

セッションとは実際にログインしている期間を指します。セッション中は、アプリケーションの使用、印刷、**Web**のブラウズなどを行えます。

ユーザ名とパスワードが認証されると、セッションマネージャが起動します。セッションマネージャによって、セッションごとに特定の設定を保存で

きます。また、最も最近のセッションのステータスを保存して、次にログインしたときにそのセッションに戻ることもできます。

セッションマネージャによって、次の設定を保存して復元できます。

- フォント、カラー、およびマウス設定などの、外観と動作の設定。
- 実行していたアプリケーション。ファイルマネージャやLibreOfficeプログラムなどが含まれます。

ティップ

セッションマネージャが管理しないアプリケーションは、保存と復元はできません。たとえば、ターミナルウィンドウのコマンドラインからViエディタを起動する場合は、セッションマネージャは編集中のセッションを復元できません。

1.1.2 デスクトップ環境の切り替え

GNOMEとKDEのデスクトップをインストールしている場合は、次の手順を使用して、デスクトップ環境を切り替えます。

- 1 [コンピュータ] > [ログアウト] > [ログアウト] の順にクリックします。

KDEでは [メインメニュー] ボタンをクリックし、次に [終了] ログアウトの順にクリックします。

- 2 KDEでは、ログイン画面で [セッション] をクリックし、該当するデスクトップを選択します。GNOMEで、 [セッション] メニューからデスクトップを選択します。
- 3 ユーザ名を入力して、<Enter>キーを押します。
- 4 パスワードを入力して、<Enter>キーを押します。

1.1.3 画面のロック

画面をロックするには、次のいずれかを実行します。

- [コンピュータ] > [画面のロック] の順にクリックします。
- [ロック] ボタンがパネルにある場合、そのボタンをクリックします。

[ロック] ボタンをパネルに追加するには、パネルを右クリックして、[パネルに追加] > [画面のロック] の順にクリックします。

画面をロックすると、スクリーンセーバーが起動し、画面がロックされます。画面をロック解除するには、マウスを移動するかキーを押して、ロックされた画面ダイアログを表示します。パスワードを入力し、<Enter>キーを押して画面のロックを解除します。

スクリーンセーバーの設定についての詳細は、3.3.4項「スクリーンセーバの設定」(63 ページ)を参照してください。

1.2 ログアウト

コンピュータを使い終わったら、ログアウトするか(システムを稼働したままにしておく)、コンピュータを再起動またはシャットダウンすることができます。システムに電源管理機能が装備されている場合は、コンピュータをサスペンドすることもできます。サスペンドすると、次のセッション起動が、完全に再起動する場合よりはるかに高速になります。

1.2.1 ログアウトまたはユーザの切り替え

- 1 [コンピュータ] > [ログアウト] の順にクリックします。
- 2 次のいずれかのオプションを選択します。

Log Out

現在のセッションからログアウトし、ログイン画面に戻ります。

ユーザーの切り換え

セッションをサスペンド状態にして、別のユーザとしてログインしてコンピュータを使用します。

1.2.2 コンピュータの再起動またはシャットダウン

1 [コンピュータ] > [シャットダウン] の順にクリックします。

2 次のいずれかのオプションを選択します。

シャットダウン

現在のセッションからログアウトし、コンピュータの電源を切ります。

再開

現在のセッションからログアウトし、コンピュータを再起動します。

一時停止

コンピュータを最低限の電力しか消費しない一時的な状態にします(「RAMへのサスペンド」)。セッションの状態は保持されます。これには、実行中のすべてのアプリケーションや、開いているすべてのドキュメントが含まれます。

休止

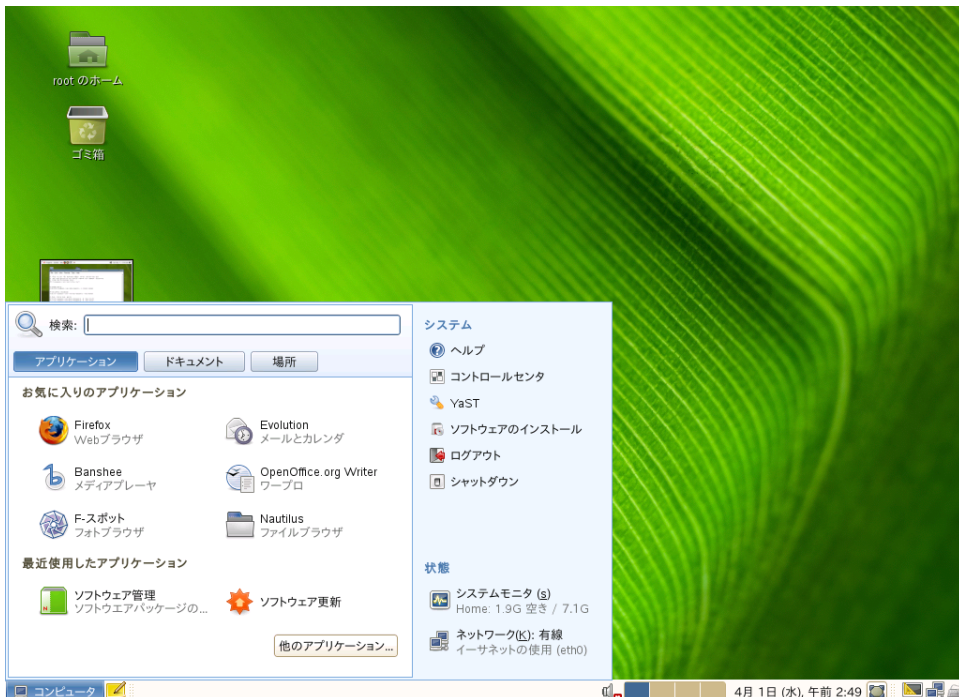
セッションをサスペンド状態にします。コンピュータを再起動するまでは、電力は消費されません(「ディスクへのサスペンド」)。セッションの状態は保持されます。これには、実行中のすべてのアプリケーションや、開いているすべてのドキュメントが含まれます。

1.3 デスクトップの基礎知識

他の一般的なデスクトップ製品と同様に、GNOMEデスクトップの主要なコンポーネントはファイル、フォルダ、プログラムへリンクするアイコン、そして画面の下にあるパネルです(Windowsのタスクバーに似ています)。アイコンをダブルクリックすると、関連するプログラムが起動します。アイコンを右クリックすると、詳細なメニューとオプションが表示されます。また、デス

クトップで何もない場所を右クリックして、デスクトップ自体を設定または管理するための詳細メニューを表示することもできます。

図 1.1 GNOME デスクトップ



デフォルトでは、デスクトップには、ルートフォルダと削除されたアイテム用のゴミ箱の2つのアイコンが配置されています。コンピュータ上のデバイスを示す他のアイコンもデスクトップに表示されることがあります。ホームフォルダをダブルクリックすると、Nautilusファイルマネージャが起動し、ホームディレクトリ(ユーザのファイルと環境設定の保存場所)の内容が表示されます。Nautilusの使い方の詳細については、2.2項「Nautilusを使ったフォルダとファイルの管理」(19 ページ)を参照してください。

アイコンを右クリックすると、コピー、切り取り、名前の変更などのファイル操作を行うためのメニューが表示されます。メニューから [プロパティ] を選択すると、設定ダイアログボックスが表示されます。[基本] タブでは、アイコン名とアイコン自体(アイコンをクリックして別のファイルを選択します)を変更できます。アイコンが示すオブジェクトの各種情報もここに表示さ

れます。[エンブレム] タブでは、視覚的に内容を表す4つの記号をアイコンに追加することができます。[アクセス権] タブでは、選択したファイルへアクセスできるよう設定することができます。[メモ] タブでは、コメントを管理できます。ゴミ箱のメニューには [Empty Trash] オプションもあり、これでゴミ箱の内容を削除できます。フォルダを示すアイコンには [共有] タブも備わっており、他のユーザとそのフォルダを共有できます。詳細については、5.4項「フォルダの共有」(103 ページ)を参照してください。

リンクは特殊なファイルの種類で、別のファイルまたはフォルダをポイントします。リンクに対して何らかのアクションを実行する場合、そのアクションはリンクが参照するファイルまたはフォルダに対して実行されます。ただし、リンクを削除してもリンクファイルだけ削除され、リンクが参照しているファイルは削除されません。

デスクトップ上にフォルダまたはファイルへのリンクを作成するには、ファイルマネージャ 内の該当するオブジェクトを右クリックしてオブジェクトにアクセスし、[Make Link(リンク作成)] をクリックします。[ファイルマネージャ] ウィンドウからリンクをドラッグして、デスクトップにドロップします。

1.3.1 デフォルトのデスクトップアイコン

デスクトップからアイコンを削除するには、アイコンをゴミ箱にドラッグするだけで削除できます。ホームアイコンは削除できません。

警告

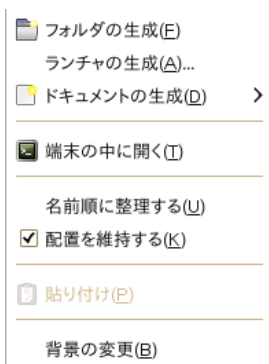
このオプションの使用には注意が必要です。フォルダやファイルのアイコンをゴミ箱に移動して、ゴミ箱を空にすると、実際のデータが削除されます。ファイルまたはディレクトリへのリンクだけを表示するアイコンの場合は、リンクだけ削除されます。

1.3.2 デスクトップメニュー

デスクトップで何も表示されていない場所を右クリックすると、さまざまなオプションのあるメニューが表示されます。新しいフォルダを作成するには [フォルダの生成] をクリックします。[ランチャの生成] では、アプリケーションのランチャアイコンを作成できます。アプリケーション名と起動用の

コマンドを提供し、使用するアイコンを選択します。テンプレートから新しいドキュメントを作成するには、[ドキュメントの生成]をクリックします。[名前順に整理する]を使用すると、デスクトップ上のアイコンを名前別に整列させることができます。[配置を維持する]をオンにすると、アイコンは常にグリッド上に整列します。このメニューでデスクトップのバックグラウンドを変更したり、ターミナルウィンドウを開くこともできます。

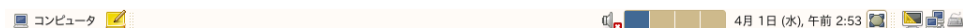
図 1.2 GNOME デスクトップメニュー



1.3.3 ボトムエッジパネル

デスクトップには、画面の下端を横切るパネルが含まれています。一番下のパネルには、[メインメニュー] (Windows*の[スタート]メニューに類似)と、現在実行しているすべてのアプリケーションのアイコンが表示され、アプリケーションやアプレットにも簡単にアクセスできるタスクバーが含まれています。タスクバーでプログラム名をクリックすると、それに対応するプログラムがフォアグラウンドになります。プログラムがすでにフォアグラウンドになっている状態で、ウィンドウのタイトルをクリックすると、そのプログラムは最小化されます。最小化されたアプリケーションをクリックすると、該当するウィンドウがフォアグラウンドで再び開きます。

図 1.3 GNOME のボトムエッジパネル



仮想デスクトップから追加ワークスペースにアクセスします。たとえば、さまざまなワークスペースでアプリケーションを開き、他のアプリケーション

の干渉を受けずにそれぞれのデスクトップでそのアプリケーションを使用することができます。

[*Show Desktop*] アイコンがボトムエッジパネルの右にあります。このアイコンですべてのプログラムウィンドウを最小化し、デスクトップを表示します。また、すべてのウィンドウが最小化されている場合は、それらが再表示されます。

パネルの空白の領域を右クリックすると、メニューが表示され、次にリストされたオプションを使用できます。

表 1.1 パネルメニューオプション

オプション	説明
パネルへ追加	パネルに追加できるアプリケーションとアプレットのメニューが開きます。
プロパティ	選択したパネルのプロパティを変更します。 [<i>向き</i>] プロパティを使用すると、画面上の別の場所にパネルを移動させることができます。
このパネルを削除する	デスクトップからパネルと、パネルのすべての設定を削除します。
新しいパネル	新しいパネルを作成し、デスクトップに追加します。
ヘルプ	Help Centerを開きます。
パネルについて	パネルアプリケーションに関する情報ウィンドウを開きます。

1.3.4 アプレットとアプリケーションをパネルに追加

ボトムエッジパネルにアプリケーションとアプレットを追加すると、すぐにアクセスできるようになります。アプレットとは小さなプログラムのことで、アプリケーションは通常、より強力なスタンドアロンプログラムです。アプ

レットを追加すると、便利なツールが簡単にアクセスできる場所に配置されます。

GNOMEデスクトップには多くのアプレットが付属しています。ボトムエッジパネルを右クリックして「パネルに追加」を選択すると、詳しいリストが表示されます。

図 1.4 「パネルへ追加」ダイアログボックス



便利なアプレットの例は次のとおりです。

表 1.2 役に立つアプレット

アプレット	説明
辞書検索	オンライン辞書で単語を検索します。
強制終了	アプリケーションを終了します。これは、応答しないアプリケーションを終了したいときに特に便利です。
ファイルの検索	コンピュータ上のファイル、フォルダ、文書を検索します。

アプレット	説明
覚え書き	デスクトップ上で覚え書きを作成、表示、管理できます。
従来のメインメニュー	GNOMEの旧バージョンのように、メニューからプログラムにアクセスします。これは、GNOMEの旧バージョンに慣れているユーザには特に便利です。
天気予報	特定の都市の現在の気象情報を表示します。

デスクトップの使用

ではデスクトップの使用を開始しましょう。この章では、アプリケーションの起動方法、ファイルの管理と検索、およびCDへのデータの書き込み方法について説明します。GNOMEの電源管理の概念や、デスクトップで通常のタスクを実行する方法を理解できるようになります。

2.1 メインメニューの使用

一番下のパネルのちょうど左にある [コンピュータ] をクリックして、メインメニューを開きます。メインメニューには、最も最近に使用したアプリケーションとお気に入りのアプリケーションが一覧されます。[他のアプリケーション] をクリックすると、他のアプリケーションがカテゴリ別に表示されます。[ドキュメント] をクリックして最近使ったドキュメントを表示したり、[場所] をクリックしてお気に入りの場所(ホームディレクトリやデスクトップなど)を表示することもできます。右側にあるオプションを使用すると、[ヘルプ] のアクセス、[YaST] の使用、GNOMEコントロールセンターの起動、画面のロック、デスクトップからのログアウト、またはハードドライブおよびネットワーク接続のステータスのチェックを行うことができます。

☒ 2.1 メインメニュー



[メインメニュー] には、さまざまな要素が含まれています。

2.1.1 検索バー

検索バーを使って、システム上のアプリケーションやファイルを検索することができます。[検索] フィールドに検索するフレーズを入れて、<Enter>キーを押してください。結果は[デスクトップ検索] ダイアログボックスに表示されます。

GNOMEデスクトップの検索機能であるBeagleを使用する方法の詳細については、第6章 *Beagle*を使った検索(107 ページ)を参照してください。

2.1.2 メインメニューのタブ

[アプリケーション]、[ドキュメント]、[場所] タブをクリックして、メインメニューに表示する項目の種類を指定できます。

お気に入りのアプリケーション

デフォルトでは、[お気に入りのアプリケーション] には、一般的に使用される4つのアプリケーションのアイコンが表示されます。頻繁に使用するアプリケーションを表示する場合に、このビューをカスタマイズします。

お気に入りのアプリケーションに項目を追加する

- 1 [コンピュータ] > [他のアプリケーション] の順にクリックします。
- 2 追加するアプリケーションを右クリックします。
- 3 [お気に入りの追加] を選択します。

選択したアプリケーションが [お気に入りのアプリケーション] に追加されます。

お気に入りのアプリケーションから項目を削除する

- 1 [コンピュータ] をクリックします。
- 2 メインメニューにお気に入りのアプリケーションが表示されていることを確認します。メインメニューに [お気に入りのアプリケーション] が表示されていない場合は、[アプリケーション] をクリックします。
- 3 削除する項目を右クリックします。
- 4 [お気に入りから削除] を選択します。

最近使用したアプリケーション

[最近使用したアプリケーション] には、過去2時間から4時間以内に起動したアプリケーションが表示されます(これらのアプリケーションが [お気に入りのアプリケーション] に表示されていない場合)。

最近使ったファイル

[ドキュメント] タブをクリックして、[お気に入り] と [最近のドキュメント] を表示します。このビューを使用すると、最も頻繁に使用したドキュメントまたは最近使用したドキュメントを素早く探すことができます。ファイルブラウザを表示するには、[他のドキュメント] をクリックします。[最近のドキュメント] から [お気に入りのドキュメント] のセクションにドキュメントを移動するには、ドキュメントを右クリックして、[お気に入りの追加] を選択します。

最近使用した場所

最近開いた場所を表示する場合は、**〔場所〕** タブをクリックします。このビューは、最近作業を行った場所を素早く探す場合に役立ちます。ファイルブラウザを表示するには、**〔他の場所〕** をクリックします。

2.1.3 システム

メインメニューの **〔システム〕** パネルには、複数のシステムアプリケーションのショートカットがあります。

表 2.1 システムショートカット

アプリケーション	説明
ヘルプ	Help Centerを開きます。ここから、システムのオンラインヘルプを参照することができます。
の最大数	デスクトップのカスタマイズと環境設定を行えます。詳細については、第3章 設定のカスタマイズ (49 ページ) を参照してください。
YaST	デスクトップのカスタマイズと環境設定を行えます。
YaST	YaSTコントロールセンターを開き、システムを設定できます。
画面のロック	離席している間、システムを他人に利用されないように、画面をロックします。システムをアンロックするには、パスワードを入力してください。
ログアウト	〔ログアウト〕 ダイアログを開きます。ここから、ログアウトしたり、ユーザを切り替えることができます。
シャットダウン	〔シャットダウン〕 ダイアログを表示します。ここから、システムをシャットダウン、または再起動することができます。

ます。このショートカットからコンピュータをサスペンドすることもできます。

2.1.4 ステータス

メインメニューの **[状態]** セクションには、ハードディスクの利用可能容量や使用しているネットワーク接続の種類など、ハードドライブとネットワーク接続に関する情報が表示されます。

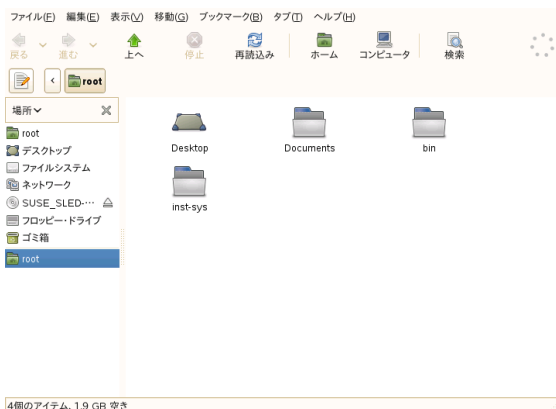
2.2 Nautilusを使ったフォルダとファイルの管理

フォルダおよびドキュメントの作成(または表示)、スクリプトの起動、およびデータCDの作成には、Nautilusファイルマネージャを使用します。さらに、ファイルマネージャはWebとファイルの表示をサポートします。

ファイルマネージャは、次の方法で開くことができます。

- **[コンピュータ]** > **[Nautilusファイルブラウザ]** の順にクリックします。
- デスクトップのホームディレクトリアイコンをダブルクリックします。
- **[コンピュータ]** > **[他のアプリケーション]** > **[システム]** > **[ホームフォルダ]** の順にクリックします。

2.2 ファイルマネージャ



Nautilusウィンドウの要素には、次の内容が含まれています。

メニュー ファイルマネージャではほとんどのタスクを実行できます。ファイルマネージャウィンドウ内で右クリックして、状況に依存したポップアップメニューを表示することもできます。このメニュー内の項目は右クリックした場所によって変わります。たとえば、ファイルまたはフォルダを右クリックすると、そのファイルやフォルダに関連する項目を選択できます。ビューペインのバックグラウンドで右クリックすると、ビューペイン内の項目の表示に関連する項目を選択できます。

ツールバー ファイルとフォルダを素早く探しアクセスすることができます。ツールバーには、[戻る]、[進む]、[上]、[停止]、[リロード]、[ホーム]、[コンピュータ]、および[検索]ボタンがあります。

場所ツールバー ファイル、フォルダ、およびURIサイトを検索できます。ロケーションバーは従来のテキストベースのビュー(パスの入力または編集が可能)と、ボタンビュー(各フォルダがボタンとして表示される)という2つのビューをサポートしています。ボタンを押すとその場所に移動します。

サイドペイン 選択されたファイルまたはフォルダへの移動や選択したファイルまたはフォルダに関する情報を表示できます。ペインへの表示項目をカスタマイズするには、ドロップダウンリストを使用します。リストには、ファイルに関する情報の表示方法、ファイルに関する操作の実行方法、ファイルへのエンブレムの追加方法、最近訪問したサイトの履歴の表示方法、ツリーでのファイルの表示方法が含まれています。サイドペインを閉じるには、サ

イドペインの右上のX印をクリックします。サイドペインを表示するには、
[表示] > [サイドペイン] の順にクリックするか、<F9>キーを押します。

参照ペイン フォルダとファイルを表示します。[表示] メニューのオプションを使用して、コンテンツのズームを行うか、さまざまなソートオプションから選択します。項目を詳細リスト、縮小リスト、またはアイコンとして表示することもできます。

ステータスバー フォルダ内の項目数と使用可能な空き領域を表示します。ファイルを選択すると、ステータスバーにファイル名とサイズを表示します。

2.2.1 ファイルマネージャナビゲーション ショートカット

ファイルマネージャ内を移動するために、次のようなショートカットが用意されています。

表 2.2 ファイルマネージャナビゲーションショートカット

ショートカット	説明
<—またはAlt + ↑	親フォルダを開きます。
矢印キー	項目を選択します。
Alt + ↓またはEnter	項目を開きます。
Alt + Enter	項目の [プロパティ] ダイアログを開きます。
Shift + Alt + ↓	項目を開いて、現在のフォルダを閉じます。
Shift + Alt + ↑	親フォルダを開いて、現在のフォルダを閉じます。
Shift + Ctrl + W	すべての親フォルダを閉じます。

ショートカット	説明
Ctrl + L	ロケーションバーのビューを、ボタンビューからテキストベースのビューに切り替えます。
Alt + Home	ホームディレクトリを開きます。

詳細は、ファイルマネージャで [ヘルプ] > [目次] の順に選択してください。

2.2.2 フォルダの圧縮

アーカイブ保存したいファイルがある場合は、ファイルをアーカイブ形式に圧縮できます。

- 1 Nautilus参照ペインでアーカイブするフォルダを右クリックし、[圧縮] をクリックします。



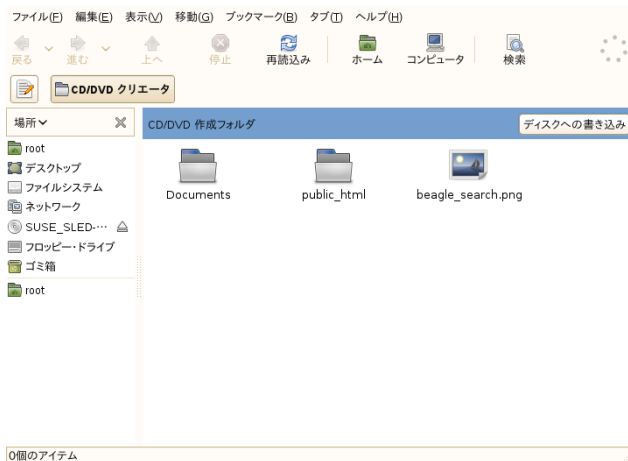
- 2 デフォルトのアーカイブファイル名を使用するか、または新しい名前を入力してください。
- 3 ドロップダウンリストからファイルの拡張子を選択します(最も一般的なアーカイブ形式であるtar.gzか、Windowsとの互換性がある.zipを選択します)。
- 4 アーカイブファイルの場所を指定して、[作成] をクリックします。

アーカイブファイルを展開するには、ファイルを右クリックして、[Extract Here] を選択します。

2.2.3 CDまたはDVDの作成

システムにCDまたはDVDの読み込み/書き込みドライブがある場合は、Nautilusファイルマネージャを使用して、CDやDVDを作成できます。

- 1 [コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [システム] > [CD/DVDクリエータ] の順にクリックするか、空のディスクを挿入して、[データCD/DVDの作成] または [オーディオCD/DVDの作成] をクリックします。
- 2 ディスクに保存したいファイルをNautilus [CD/DVDクリエータ] ウィンドウにドラッグアンドドロップします。



- 3 [ディスクへの書き込み] をクリックします。
- 4 [ディスクへの書き込み] ダイアログボックスの情報を変更するか、デフォルト値を使用して [書き込み] をクリックします。

ファイルがディスクに書き込まれます。書き込むデータ量や、ドライブの書き込み速度によっては、処理が完了するまで数分間かかることもあります。

ISOイメージの書き込みを行うには、NautilusでISOイメージファイルを右クリックし、[ディスクへの書き込み] を選択します。[ディスクへの書き込

み] ダイアログボックスの情報を変更するか、デフォルト値を使用して [書き込み] をクリックします。

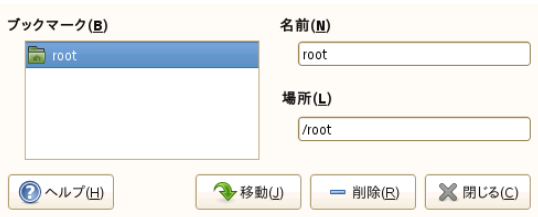
データ書き込み用のアプリケーションであるBraseroを使用して、CDまたはDVDへの書き込みを行うこともできます。詳細については、第24章*Brasero:CDとDVDの書き込み*(↑アプリケーションガイド)を参照してください。

2.2.4 ブックマークの使用

Nautilusのブックマーク機能を使用して、お気に入りのフォルダに印を付けることができます。

- 1 ブックマークを作成するフォルダや項目を選択します。
- 2 [ブックマーク] > [ブックマークに追加] の順にクリックします。フォルダ名をブックマーク名としてブックマークがリストに追加されます。ファイルをブックマークすると、フォルダがブックマークされます。
- 3 ブックマークリストから項目を選択するには [ブックマーク] をクリックしてからリストの目的のブックマークをクリックします。

[ブックマーク] > [ブックマークの編集] をクリックし、ダイアログボックスから選択して、ブックマークリストを整理できます。



ブックマークの順番を変更するには、ブックマークをクリックして、目的の場所にドラッグします。

2.2.5 ファイルマネージャの設定

ファイルマネージャの設定を変更するには、[編集] > [設定] の順にクリックします。詳細については、3.3.7項「ファイル管理の初期設定の指定」(68 ページ)を参照してください。

2.2.6 リモートファイルへのアクセス

Nautilusを使用してリモートサーバ上のファイルにアクセスすることができます。詳細については、第5章 ネットワークリソースへのアクセス (99 ページ)を参照してください。

2.3 リムーバブルメディアへのアクセス

CD/DVDまたはUSBストレージデバイスにアクセスするには、メディアを挿入します。メディアのアイコンがデスクトップ上に自動的に作成されます。多くの場合、リムーバブルメディアをコンピュータに挿入するか接続すると、ファイルマネージャウィンドウが自動的に表示されます。ファイルマネージャが開かない場合は、そのドライブのアイコンをダブルクリックして、内容を表示してください。

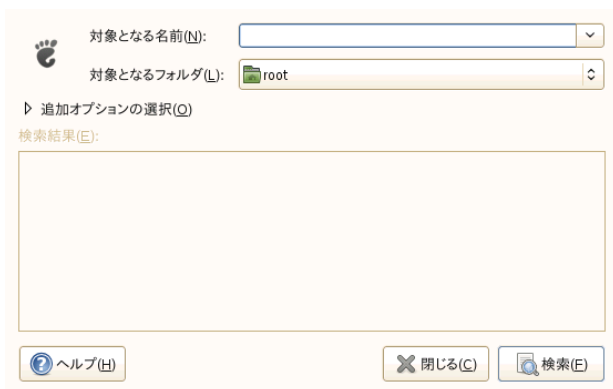
警告

ディスクの使用後は、ドライブからディスクを安易に取り出さないでください。リムーバブルメディアは、常に、最初にシステムからマウント解除する必要があります。メディアにアクセス中のすべてのアプリケーションを終了し、メディアのアイコンを右クリックして、メニューから [取り出し] または [マウント解除] を選択します。デバイスアイコンが消えるかトレイが開いたら、メディアを安全に取り出します。

2.4 ファイルの検索

[コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [システム] メニューで [ファイル検索] を使用すると、任意の数の検索条件を使用して、コンピュータ上またはネットワーク共有フォルダ内のファイルを検索できます。

図 2.3 [ファイル検索]



[ファイル検索] は、UNIXコマンドの 検索、grep、およびlocateを使用します。検索では常に、大文字と小文字が区別されます。

[アプリケーションの実行] ダイアログ(<Alt> + <F2>で起動)に次のコマンドを入力して、[ファイル検索] ダイアログを開くこともできます。

```
gnome-search-tool
```

2.4.1 基本検索の実行

- 1 [ファイルの検索] を開始します。
- 2 [対象となる名前] に検索文字列を入力します。

次の表のように、検索文字列にファイル名やファイル名の一部を指定したり、ワイルドカードを使用することができます。

検索文字列	例	結果
ファイル名またはファイル名の一部	myfile.txt	ファイル名に「myfile.txt」を含むすべてのファイルを検索します。
ワイルドカードを使ってファイル名の一部を指定 (*[])	*.ch	ファイル拡張子が.cまたは.hのすべてのファイルを検索します。

- 3 [対象となるフォルダ] フィールドには、[ファイル検索] を開始するディレクトリを選択します。
- 4 [検索] をクリックします。

2.4.2 検索オプションの追加

ファイルを内容、日付、所有者、またはファイルサイズで検索する場合は、[もっとたくさんのオプションを選択します] を使用します。

- 1 [ファイルの検索] を開始します。
- 2 [対象となる名前] に検索文字列を入力します。
- 3 [対象となるフォルダ] フィールドには、ファイルの検索を開始するディレクトリのパスを入力します。
- 4 [もっとたくさんのオプションを選択します] をクリックして、次に [適用する検索条件] をクリックします。
- 5 利用する検索オプションを選択して、[追加] をクリックします。

次のオプションを指定できます。

オプション	説明
次のテキストを含む	ファイル名でファイルを検索します。完全なファイル名またはファイル名の一部をワ

オプション	説明
	<p>イルドカードを使ってフィールドに指定します。一連の文字列を表すには、アスタリスク(*)を使用します。任意の1文字を表すには、クエスチョンマーク(?)を使用します。検索では大文字と小文字が区別されません。</p>
次の日数より前に変更した	指定された期間(日数)内に変更されたファイルを検索します。
次の日数より前に変更した	指定された期間(日数)より前に変更されたファイルを検索します。
次のサイズよりも小さい	指定されたサイズ(KB)以上のファイルを検索します。
次のサイズよりも大きい	指定されたサイズ(KB)以下のファイルを検索します。
ファイルが空である	空のファイルを検索します。
次のユーザが所有する	指定されたユーザが所有しているファイルを検索します。テキストボックスにユーザ名を入力してください。
次のグループが所有する	指定されたグループが所有しているファイルを検索します。テキストボックスにグループ名を入力してください。
所有者が不明である	システムが知らないユーザまたはグループが所有しているファイルを検索します。
次の名前を含まない	入力した文字列を含まないファイル名を検索します。完全なファイル名またはファイル名の一部をワイルドカードを使ってフィールドに指定します。一連の文字列を表すには、アスタリスク(*)を使用します。

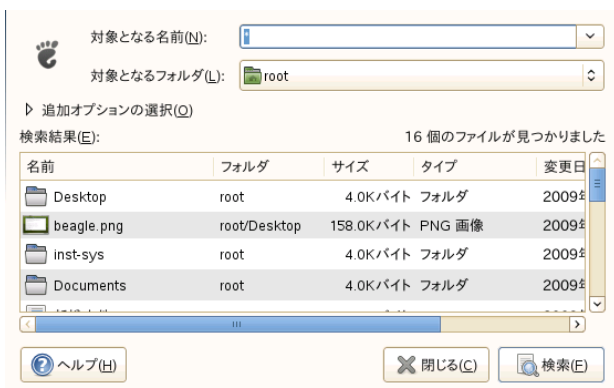
オプション	説明
	任意の1文字を表すには、クエスチョンマーク(?)を使用します。検索では大文字と小文字が区別されます。
名前が次の正規表現に一致する	ディレクトリパスまたはファイル名に、指定された正規表現を持つファイルを検索します。テキストボックスに正規表現を入力してください。
	正規表現は、検索パターンを指定するために使用される特殊文字列です。詳細については、 http://www.regular-expressions.info を参照してください。
隠しファイル/フォルダを表示する	隠しファイルとバックアップファイルも検索対象にします。
シンボリック・リンクを追跡する	ファイルの検索時に、シンボリックリンクも検索します。
他のファイルシステムを除く	開始ディレクトリと同じファイルシステム上のディレクトリだけを検索します。

- 6 検索オプションに対応した検索情報を指定してください。
- 7 現在の検索から検索オプションを削除するには、オプションの隣にある [削除] をクリックします。
- 8 [検索] をクリックします。

2.4.3 検索結果リストの使用

[検索結果] (検索結果)リストを使って、見つかったファイルを開いたり、削除したり、検索結果をファイルに保存することができます。

図 2.4 検索結果リスト



検索結果リストに表示されたファイルを開くには、ファイルを右クリックして **[開く]** をクリックするか、またはファイルをダブルクリックします。検索結果リストに表示されているファイルのあるフォルダを開くには、ファイルを右クリックして **[フォルダを開く]** をクリックします。

検索結果リストに表示されているファイルを削除するには、ファイルを右クリックして **[ゴミ箱へ移動する]** をクリックします。

[ファイル検索] で得られた最新の結果を保存するには、検索結果内の任意の場所を右クリックして **[検索結果に名前を付けて保存]** をクリックします。検索結果を含むファイルの名前を入力し、**[保存]** をクリックします。

2.4.4 クイック検索を無効にする

[ファイル検索] のデフォルトでは、`locate` コマンドを使って一部の検索の高速化を試みます。`locate` コマンドは、ファイルの安全なインデックス化によりファイル検索を高速化します。`locate` コマンドはファイルインデックスを利用しているため、検索結果が最新の情報ではない可能性もあります。このクイック検索を無効にするには、ターミナルウィンドウで次のコマンドを実行してください。

```
# gconftool-2 --type=bool --set  
/apps/gnome-search-tool/disable_quick_search 1
```

2.5 アプリケーション間のテキストの移動

アプリケーション間でテキストをコピーするには、テキストを選択して、貼り付けたい場所までマウスカーソルを移動します。マウスの中央のボタンまたはスクロールホイールをクリックしてテキストを貼り付けます。

プログラム間で情報をコピーする場合、ソースプログラムを開いたままにしてテキストを貼り付け、その後プログラムを閉じます。プログラムが終了すると、そのアプリケーションからコピーしたクリップボードにある内容が失われます。

2.6 インターネット接続の管理

インターネットを参照したり、電子メールを送受信するには、YaSTを使ってインターネット接続を設定する必要があります。ご利用の環境に合わせて、YaSTでNetworkManagerを使用するかどうかを選択します。GNOMEでは、「項「GNOME NetworkManagerアプレットの使用」(第23章 *NetworkManager*の使用, ↑管理ガイド)」に記載されている方法でNetworkManagerとのインターネット接続を確立できます。

NetworkManagerを使用するかどうかの判断基準については、項「NetworkManagerの使用」(第23章 *NetworkManager*の使用, ↑管理ガイド)を参照してください。

2.7 インターネットの探索

GNOMEデスクトップには、Mozilla*ベースのFirefoxブラウザが含まれています。[コンピュータ] > [Firefox] の順にクリックすると、このブラウザを起動できます。

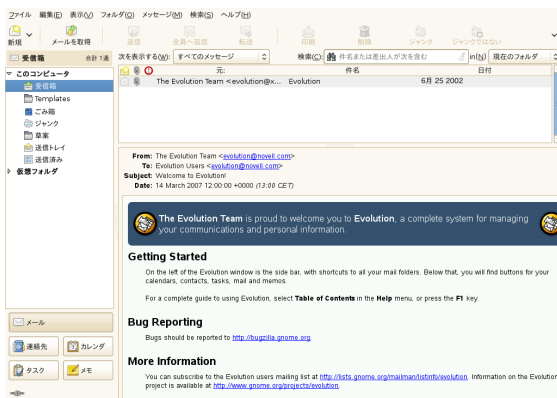
別のWebブラウザと同じように、上にある場所ツールバーにアドレスを入力するか、ページにあるリンクをクリックして、別のページに移動できます。

詳細については、第15章 *Firefox: Webの閲覧* (↑アプリケーションガイド) を参照してください。

2.8 電子メールとスケジューリング

メールやイベントを参照、管理するために、SUSE Linux Enterprise Desktopには個人情報の保管、整理、検索を簡単に行えるグループウェアプログラムであるNovell® Evolution™が提供されています。

Evolutionでは、電子メール、カレンダー、アドレス帳、メモ帳、およびタスクリストが単一の使いやすいアプリケーションにシームレスに統合されています。通信とデータ交換のさまざまな標準に幅広く対応しているため、EvolutionはMicrosoft® Exchangeを含めた、既存の社内ネットワークやアプリケーションと連携することができます。



Evolutionを開始するには、[コンピュータ] > [その他のアプリケーション] > [オフィス] > [Evolution のメールとカレンダー] の順にクリックします。

初めてEvolutionを起動すると、メールアカウントをセットアップして、古いメールアカウントからのインポートをサポートする質問に回答するように求められます。次に、新着メールの件数や今後の予定とタスクが表示されます。カレンダー、アドレス帳、メールツールは左のショートカットバーから使用できます。

詳細については、第6章 *Evolution: 電子メールとカレンダー操作* (↑アプリケーションガイド) を参照してください。

2.9 LibreOfficeでのドキュメントのオープンまたは作成

ドキュメントの作成と編集のために、GNOMEデスクトップと一緒にLibreOfficeがインストールされています。LibreOfficeはすべてが揃ったオフィスツールで、Microsoft Officeファイルを読み込んだり、Microsoft Office形式でファイルを保存することができます。LibreOfficeには、ワードプロセッサ、表計算、データベース、描画ツール、およびプレゼンテーションプログラムが含まれます。

まず、LibreOfficeモジュールを選択するには、[コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [オフィス] の順にクリックし、開きたいモジュールを選択します。

LibreOfficeにはサンプルドキュメントとテンプレートがいくつか含まれています。テンプレートにアクセスするには、LibreOffice.内で [ファイル] > [新規] > [テンプレートと文書] の順にクリックします。また、レターや他の定型文書の作成の手順を説明するウィザードを使用することができます。

詳細については、第1章 *LibreOffice: オフィススイート* (↑ *アプリケーションガイド*) の *OpenOffice.org Quick Start* (↑ *OpenOffice.org Quick Start*) を参照するか、または任意のLibreOfficeプログラムの [ヘルプ] を表示してください。

2.10 デスクトップの電源管理

GNOME電源マネージャはGNOMEデスクトップのセッションデーモンで、ラップトップまたはデスクトップコンピュータの電源設定を管理します。バッテリーで駆動している場合は、GNOME電源マネージャによってバッテリーの状態を示すバッテリーアイコンがパネル内に表示されます。アイコン上にマウスを動かすと、詳細な情報が示されたポップアップが表示されます。バッテリーの現在の状態を示す詳細情報を表示するには、アイコンを左クリックし、[ラップトップバッテリー] を選択します。バッテリーの残量が非常に少ない場合など、特定のイベントでは、GNOME電源マネージャによってイベントに関する通知情報が表示されます。

GNOME電源マネージャはGNOMEの起動時に自動的に起動しますが、次のコマンドを使用して手動でGNOME電源マネージャを起動することができます。

```
gnome-power-manager --verbose --no-daemon
```

2.10.1 電源に関する統計情報の表示

統計プログラムを使用して、ラップトップハードウェアの電源消費をグラフィック形式で表示することができます。統計情報のグラフにアクセスするには、バッテリーアイコンを右クリックし、**[電源履歴]**を選択するか、**[コンピュータ]** > **[他のアプリケーション]** > **[システム]** > **[電源統計]** の順にクリックします。

電源履歴グラフには、複合一次バッテリーが充電に使用している電源履歴が表示されます。ラインはシステム内のバッテリーを充電するために使用している電力量、またはシステムがバッテリーから使用している電力量を示します。プロセッサの使用量が多いタスクを実行するとラインが上昇し、システムがアイドル状態の場合(または画面を暗くしている場合)はラインが下降します。データイベントを受信すると、このグラフに説明が表示されます。

充電中や放電中以外、あるいはコンピュータがサスペンドされた場合はレートのデータは受信しません。これはハードウェア上の制約によるものです(マザーボード上の電源管理チップではなく、バッテリー管理チップからレートが送信されるため)。

ハードウェアによっては、他のグラフを**[グラフタイプ]**メニューから使用できます。オプションの**[デバイス]**ボタンを使用して、追加のハードウェアを表示できる場合もあります。

2.10.2 電源管理設定の変更

[電源管理の設定] ダイアログボックスでは、システムがACまたはバッテリー電源を使用している場合のLCDの輝度、スクリーンセーバが起動するまでのアイドル時間とサスペンド動作、ラップトップのふたを閉じた場合の動作、通知エリアのアイコンポリシーを制御することができます。

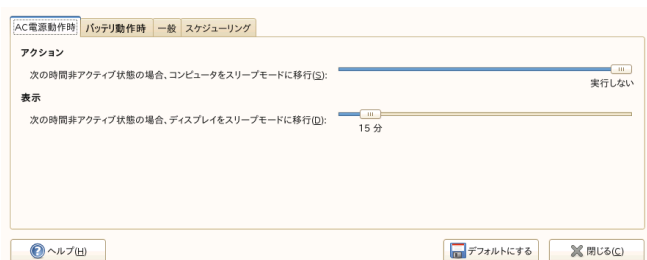
[電源管理の設定] にアクセスするには、バッテリーアイコンを右クリックして**[設定]**を選択するか、**[コンピュータ]** > **[他のアプリケーション]** > **[システム]** > **[電源管理]** の順にクリックします。

AC電源動作時の設定

[AC電源動作時] ダイアログボックスのオプションを使用して、一定時間コンピュータが非アクティブな場合は自動的にスリープ状態にすることができます。コンピュータがスリープ状態になると、電源が入った状態のまま省電力モードになります(RAMへのサスペンド)。電源を切った状態からコンピュータを起動するよりも短い時間でスリープ状態から復帰できます。

ディスプレイだけスリープ状態にして、ディスプレイの輝度を調整することもできます。実行中のタスク(DVDへのデータ書き込みなど)をコンピュータから離れている間に完了したい場合は、ディスプレイだけをスリープ状態にします。

図 2.5 AC電源設定におけるGNOMEの電源管理



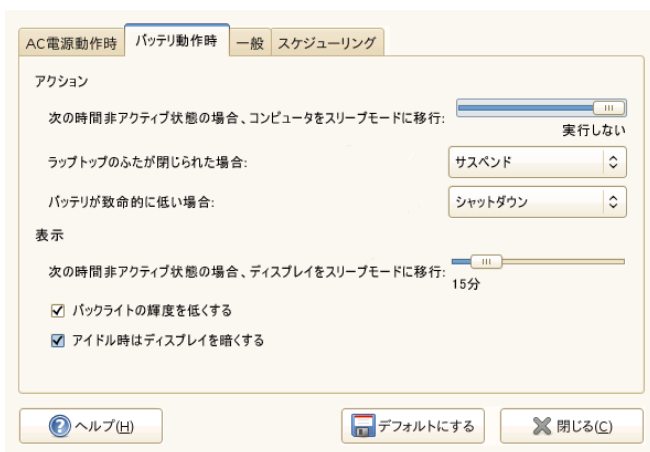
バッテリー電源動作時

[バッテリー電源動作時] ダイアログボックスを使用して、一定時間コンピュータが非アクティブな場合は自動的にスリープ状態にしたり、ラップトップのふたを閉じた場合の動作とバッテリー電源が非常に少なくなった場合の動作を指定したりできます。

コンピュータがスリープ状態になると、電源が入った状態のまま省電力モードになります(RAMへのサスペンド)。電源を切った状態からコンピュータを起動するよりも短い時間でスリープ状態から復帰できます。

ディスプレイだけをスリープ状態にすることもできます。実行中のタスク(DVDへのデータ書き込みなど)をコンピュータから離れている間に完了したい場合は、ディスプレイだけをスリープ状態にします。

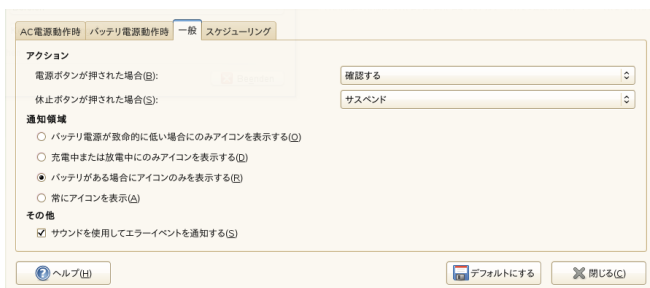
図 2.6 GNOME 電源マネージャのバッテリー電源設定



一般的な初期設定

〔一般電源管理の一般設定〕ダイアログボックスのオプションを使用して、電源またはサスペンドボタンを押したときの動作、〔通知〕エリアにアイコンを表示するかどうか、エラー時に音で通知するかどうかなど、GNOME電源マネージャの動作に関連する各種オプションを設定することができます。

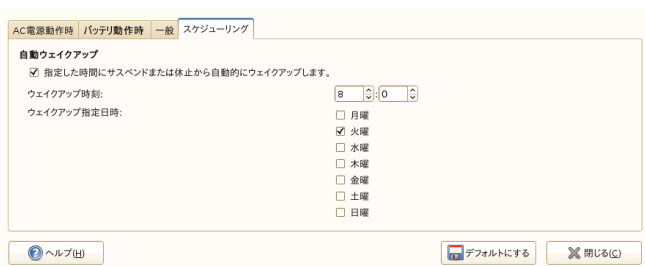
図 2.7 GNOME 電源マネージャの一般設定



ウェイクアップのスケジュール

〔電源管理の一般設定〕ダイアログボックスの〔スケジュールリング〕タブを使用して、サスペンド状態からの自動的なウェイクアップを設定します。ウェイクアップする時刻や曜日を指定します。

図 2.8 GNOME電源マネージャのスケジュール設定



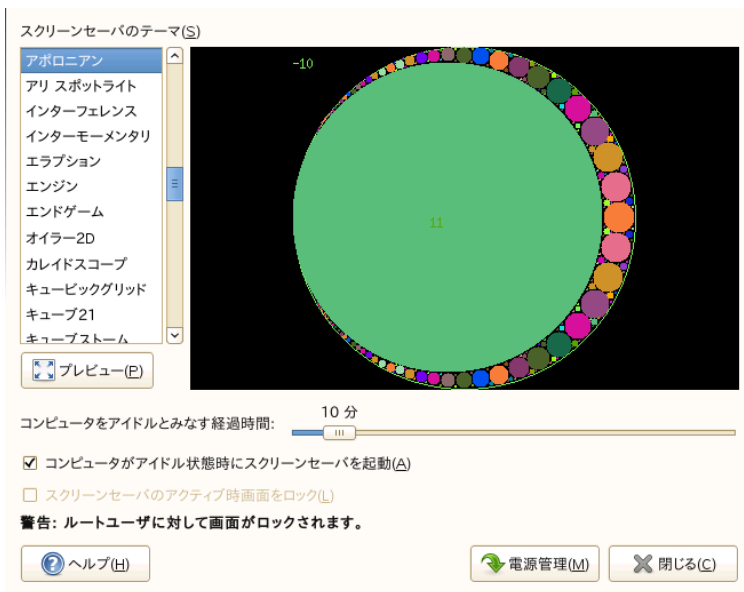
2.10.3 セッションとシステムのアイドル時間

gnome-screensaverはセッションデーモンであり、ユーザ入力を監視し(マウスの動きがあったかどうかやキーボードが押されたかどうかを監視)、タイムアウトを開始します。このタイムアウトが〔スクリーンセーバの設定〕で設定された値(〔コンピュータをアイドルとみなす経過時間〕オプションを使用)に達すると、ログインは〔「セッションアイドル」〕と示されます。

セッションがアイドル状態にあると示されると、すぐにGNOME電源マネージャが自身のシステムタイマーを起動します。〔GNOME電源マネージャの設定〕で設定されたタイムアウト値に達し、CPUロードがアイドル状態にある場合は、アイドル時の動作(画面の電源オフ、コンピュータのサスペンドやハイバネーションなど)が実行されます。

これをもっとわかりやすくするため、〔GNOME電源マネージャの設定〕内のスライダをセッションタイムアウト値+1分で開始するように設定します。これは、〔GNOME電源マネージャの設定〕は論理的にはセッションがアイドル状態にあると示されるまでトリガされないためです。〔スクリーンセーバの設定〕でセッションアイドルタイムアウトを調整すると、〔GNOME電源マネージャの設定〕の開始時間もそれに伴って変更されます。

図 2.9 「スクリーンセーバの設定」でのセッションアイドルタイムアウトの変更



スクリーンセーバの設定にアクセスするには、[コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [ツール] > [スクリーンセーバ] の順にクリックします。詳細については、3.3.4項「スクリーンセーバの設定」(63 ページ)を参照してください。

2.11 アーカイブの作成、表示、および解凍

アーカイブマネージャアプリケーション(ファイルローラとも呼ばれる)を使用して、アーカイブを作成、表示、変更、または展開することができます。アーカイブとは、他の複数のファイルを保管するためのコンテナとして使用するファイルです。アーカイブには多数のファイル、フォルダ、サブフォルダを、通常は圧縮形式で保存することができます。アーカイブマネージャアプリケーションは、zip、tar.gz、tar.bz2、lhz、rarなどの一般的な形式をサポートしています。アーカイブマネージャを使用して、圧縮された非アーカイブファイルを作成、オープン、および抽出することができます。

アーカイブマネージャを起動するには、[コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [ツール] > [ファイルローラ] の順にクリックします。圧縮ファイルがある場合は、Nautilusファイルマネージャ内でファイル名をダブルクリックし、アーカイブマネージャでアーカイブの内容を表示します。

☒ 2.10 アーカイブマネージャ



2.11.1 アーカイブを開く

- 1 アーカイブマネージャで、[ファイル] > [開く] の順にクリックします。
- 2 開きたいアーカイブを選択します。
- 3 [開く] をクリックします。

アーカイブマネージャがアーカイブタイプを自動的に判断し、次を表示します。

- ウィンドウタイトルバーにアーカイブ名。
- 表示エリア内にアーカイブの内容。

- ステータスバー内に、アーカイブ内のファイル数と解凍後のアーカイブサイズ。

別のアーカイブを開くには、> [開く] をもう一度クリックします。アーカイブマネージャが新しいウィンドウに各アーカイブを開きます。同じウィンドウで別なアーカイブを開くには、[アーカイブ] > [閉じる] の順にクリックして現在のアーカイブを閉じ、次に [アーカイブ] > [開く] の順にクリックします。

アーカイブマネージャが認識できない形式で作成されたアーカイブを開こうとすると、アプリケーションによってエラーメッセージが表示されます。

2.11.2 アーカイブ内のファイルの展開

- 1 アーカイブマネージャ内で、展開するファイルを選択します。
- 2 [ファイル] > [展開] の順にクリックします。
- 3 アーカイブマネージャによってファイルを展開するフォルダを指定します。
- 4 次の展開オプションから選択します。

オプション	説明
すべてのファイル	アーカイブ内のすべてのファイルを展開します。
Selected files (選択したファイル)	選択したファイルをアーカイブから展開します。
ファイル	指定したパターンに一致するすべてのファイルをアーカイブから展開します。
Re-create folders (フォルダの再生成)	指定したファイルの展開時にフォルダ構造を作成し直します。 たとえば、[ファイル名] テキストボックスで、/tmpを指定し、すべてのファイルの展開

オプション	説明
	<p>を選択したとします。アーカイブにはdocと呼ばれるサブフォルダが含まれます。 <i>[Re-create folders (フォルダの再生成)]</i> オプションを選択すると、アーカイブマネージャはサブフォルダのコンテンツを/tmp/docに展開します。 <i>[Re-create folders (フォルダの再生成)]</i> オプションを選択しなかった場合は、アーカイブマネージャはサブフォルダを作成しません。代わりに、サブフォルダ内のファイルを含むアーカイブ内のすべてのファイルを/tmpに抽出します。</p>
<p>既存のファイルへの上書き</p>	<p>展開先のフォルダで指定したファイルと同じ名前のファイルがあれば上書きします。</p> <p>このオプションを選択していない場合は、展開先のフォルダに同じ名前のファイルが存在していれば、アーカイブマネージャは指定されたファイルを展開しません。</p>
<p>古いファイルは展開しない</p>	<p>指定したファイルが展開先のフォルダに存在しない場合、または展開先のフォルダに含まれている指定ファイルの日付のほうが古い場合にのみ指定のファイルを展開します。アーカイブマネージャは変更日付を基に、最新のファイルを判断します。アーカイブ内のファイルが古い場合は、アーカイブマネージャは指定したファイルを展開先のフォルダに展開しません。</p>
	<p><i>[Overwrite existing files (既存のファイルへの上書き)]</i> オプションを選択している場合にのみ、このオプションを使用できます。</p>
<p>[パスワード]</p>	<p>暗号化をサポートしているアーカイブタイプの場合にのみこのオプションが使用できます。現在、暗号化をサポートしているのは.zipおよび.arjアーカイブのみです。</p>

オプション	説明
	アーカイブに暗号化されたファイルが含まれている場合、必要なパスワードを [パスワード] フィールドに入力して、展開中に指定のファイルを復号化します。アーカイブの作成時に指定した暗号化パスワードの入力が必要です。

5 [抽出] をクリックします。

アーカイブ内のすべてのファイルがパスワードで保護されている場合(そしてパスワードを指定しなかった場合)、アーカイブマネージャがエラーメッセージを表示します。

アーカイブ内の一部のファイルがパスワードで保護されている場合(そしてパスワードを指定しなかった場合)、アーカイブマネージャはエラーメッセージを表示しません。ただし、アーカイブマネージャは保護されていないファイルだけを新しいアーカイブに展開します。

アーカイブマネージャを開かずに、ファイルマネージャウィンドウでアーカイブファイルを展開するには、ファイルを右クリックして [ここで展開] を選択します。

指定したファイルのコピーがアーカイブから展開されます。展開したファイルには、アーカイブに追加された元のファイルと同じ許可と変更日付が付与されます。

展開によってアーカイブの内容は変更されません。

2.11.3 アーカイブの作成

- 1 アーカイブマネージャで、[ファイル] > [新規] の順にクリックします。
- 2 新しいアーカイブの名前と場所を指定します。
- 3 [アーカイブタイプ] ドロップダウンリストからアーカイブタイプを選択します。

4 [作成] をクリックします。

アーカイブマネージャは空のアーカイブを作成しますが、ディスクへのアーカイブ書き込みはまだ行いません。アーカイブマネージャは、アーカイブに少なくとも1つのファイルが含まれている場合にのみ新しいアーカイブをディスクに書き込みます。新しいアーカイブを作成して、ファイルを追加する前にアーカイブマネージャを終了した場合、そのアーカイブは削除されます。

5 新しいアーカイブへのファイルとフォルダの追加:

5a [編集] > [ファイルの追加]、または [編集] > [フォルダの追加] の順にクリックして追加するファイルまたはフォルダを選択します。

5b [Add] をクリックします。

アーカイブマネージャがアーカイブ内の現在のフォルダにファイルを追加します。

アーカイブマネージャを開かなくても、ファイルマネージャ内でアーカイブにファイルを追加できます。詳細については、2.2.2項「フォルダの圧縮」(22 ページ)を参照してください。

2.12 スクリーンショットを撮る

[スクリーンショットの取得] ユーティリティで、画面や各アプリケーションウィンドウのスナップショットを取得することができます。印刷キーを押してデスクトップ全体のスクリーンショットを取得するか、Alt + 印刷キーを押して現在アクティブなウィンドウまたはダイアログボックスのスクリーンショットを取得します。[コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [システム] > [スクリーンショットの取得] の順に選択してアプリケーションを起動することもできます。

スクリーンショットを取得すると、[スクリーンショットの保存] ダイアログボックスが表示されます。スクリーンショットをイメージファイルとして保存するには、スクリーンショットのファイル名を入力して、ドロップダウンリストから保存先を選択します。

図 2.11 [スクリーンショットの保存] ダイアログボックス



また、GIMPを使用して、スクリーンショットを撮ることもできます。GIMPで、**[ファイル] > [作成] > [スクリーンショット]** の順にクリックし、エリアを選択して遅延を選択し、**[スナップ]** をクリックします。

2.13 PDFファイルの表示

プラットフォーム間で共有したり、印刷する必要があるドキュメントは、PDF(Portable Document Format)ファイルとして保存できます。SUSE Linux Enterprise Desktopは、Adobe Reader付きで出荷されます。

Adobe Readerを開くには、ファイルマネージャのウィンドウ(またはWebサイト)でPDFファイルをダブルクリックするか、**Alt + F2**を押して、acroreadと入力して**Enter**を押します。

PDFファイルを表示するには、**[ファイル] > [開く]** の順にクリックして、目的のPDFファイルを探し、**[開く]** をクリックします。

Adobe ReaderでPDFファイルを表示するには、**[ファイル] > [開く]** の順にクリックして、目的のPDFファイルを探し、**[開く]** をクリックします。

このウィンドウの上部にあるナビゲーションアイコン、または左側のパネル内のサムネイルを使って、ドキュメント内を移動します。PDFドキュメントにブックマークが提供されている場合は、ビューアの左側のパネルでアクセスできます。

2.14 サウンドの制御

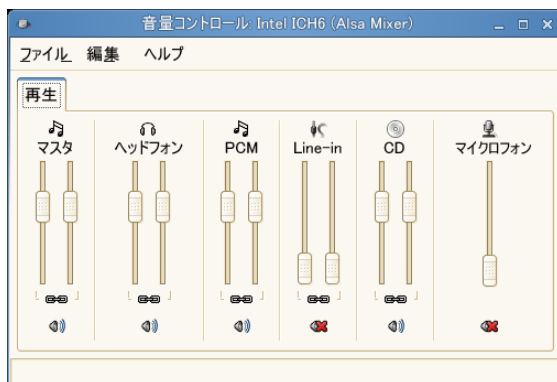
YaSTは自動的に、お使いのコンピュータのサウンドカードを識別、環境設定します。YaSTハードウェアモジュールを使って、サウンドカードを手動設定することもできます。サウンドカードを設定した後は、GNOMEボリュームコントロールミキサーを使ってサウンドのボリュームやバランスを調整できます。

GNOMEはデフォルトでPulseAudioサウンドサーバを使用します。PulseAudioによって、1つのGUIで異なるプログラムのオーディオ「ストリーム」を制御できます。たとえば、異なるプログラムのオーディオ出力をヘッドフォンやスピーカーなどの別なデバイスに送信して、2つのプログラムのオーディオ出力を同時に再生することができます。

デスクトップのパネルにミキサーアイコン(スピーカーの形)が表示されていない場合、<Alt> + <F2>を押して、「gnome-volume-control」と入力するか、[コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [マルチメディア] > [サウンド] の順にクリックします。

ミキサーアイコンを左クリックしてスライダを上下に移動すると、全体の音量が変更できます。右クリックして、詳細設定ダイアログに対して [サウンド設定] を選択します。

図 2.12 GNOMEサウンド設定ダイアログボックス



GNOMEの [音量コントロール] ダイアログボックスには、次のタブが含まれています。

サウンド効果

使用可能なすべてのサウンドテーマのリストが、選択する複数のアラート音とともに表示されます。[警告音の音量] スライダーで、アラート音の音量レベルを調整できます。

ハードウェア

システム上に存在し設定されているハードウェアサウンドデバイスが示されます。ここでは、デバイスの動作モードを設定できます。

入力

入力サウンドデバイスと、マイクなどの優先オーディオ入力を選択する選択元のサウンドデバイスが示されます。入力デバイスの音量を変更するスライダーと、入力を完全にミュートするオプションが含まれます。

出力

出力サウンドデバイスを選択する選択元のサウンドデバイスが示されます。サウンドバランスなど、デバイスの詳細設定を調整できます。

アプリケーション

現在サウンドファイルを再生している、または音声を記録しているすべてのアプリケーションが示されます。

2.15 指紋リーダーの使用

システムに指紋リーダーが搭載されている場合、ユーザは指紋リーダーに指紋を読み取らせるか、またはパスワードを入力してシステムにログインします。このリンクを有効にする(詳細については、第7章 *Using the Fingerprint Reader* (↑*Security Guide* (セキュリティガイド))参照)。

2.16 ソフトウェアアップデートの取得

インターネットに接続すると、更新アプレットがシステムのソフトウェア更新の有無を確認します。パネルのシステムトレイ内の更新アプレットによって更新の存在が通知されるので、ユーザは何度かクリックするだけで更新を簡単にインストールすることができます。アプレットアイコンは、システムで使用可能な更新の有無によって色や外観が変わります。

更新サービスアプレットでソフトウェア更新をインストールする方法と更新アプレットを設定する方法の詳細については、項「Keeping the System Up-to-date」(第6章 *Installing or Removing Software*, ↑導入ガイド)のソフトウェアのインストールと削除に関する章を参照してください。

2.17 詳細情報

この章で説明された基本的なアプリケーションのほかに、GNOMEではたくさんアプリケーションを実行できます。これらの重要なアプリケーションに関する詳細情報については、このマニュアル内の他の部分とアプリケーションガイド(↑アプリケーションガイド)を参照してください。

GNOMEおよびGNOMEアプリケーションの詳細については、<http://www.gnome.org>と<http://gnomefiles.org>を参照してください。

バグレポートや機能要求の追加を行うには、<http://bugzilla.gnome.org>を参照してください。

設定のカスタマイズ

自分の個人的な好みや必要に応じて、GNOMEデスクトップの見かけや動作を変更できます。次のような設定が変更できます。

- キーボードとマウスの設定(「3.2.2項 「キーボードの初期設定の変更」 (53 ページ)」および「3.2.3項 「マウスの設定」 (54 ページ)」に記載)
- デスクトップの背景(「3.3.1項 「デスクトップの背景の変更」 (60 ページ)」に記載)
- スクリーンセーバー(「3.3.4項 「スクリーンセーバの設定」 (63 ページ)」に記載)
- パスワード(「3.4.1項 「パスワードを変更する」 (80 ページ)」に記載)
- サウンド(「3.2.6項 「サウンド環境設定の実行」 (57 ページ)」に記載)

これらの設定やその他の設定はコントロールセンターで変更できます。

3.1 コントロールセンター

YaSTはデスクトップから独立したシステム全体のツールであり、ハードウェア設定、ネットワークデバイスおよびサービス、ソフトウェア管理、仮想化などのSUSE Linux Enterprise Desktopインストールのほとんどの側面を設定しますが、コントロールセンターはGNOME設定ツールであり、GNOMEデスクトップのルックアンドフィール、個人設定、および初期設定をより重点的に扱っています。

コントロールセンターにアクセスするには [コンピュータ] > [コントロールセンター] をクリックします。コントロールセンターは次の4つのカテゴリに分かれています。

ハードウェア

グラフィックカード、ネットワークデバイス、モニタ、プリンタ、またはキーボードレイアウトなどのハードウェアコンポーネントを設定し、サウンドデバイスおよびデスクトップサウンド効果を設定できます。詳細については、3.2項「ハードウェア」(52 ページ)を参照してください。

外観

デスクトップの背景、スクリーンセーバー、およびデスクトップに表示するフォントに関する設定があります。テーマ、ウィンドウの動作、およびメニュー、スクロールバーなどのデスクトップ要素のスタイルを変更することができます。ここでは、3Dデスクトップ効果(Compiz)も設定できます。詳細については、3.3項「外観」(60 ページ)を参照してください。

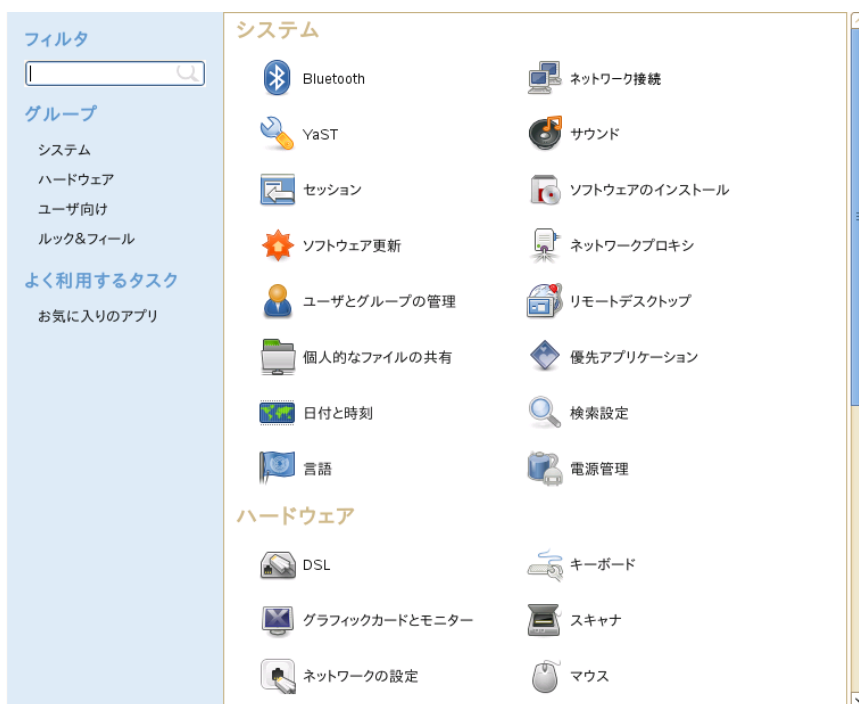
個人用

ここでは、ログインパスワードを変更したり、キーボードショートカットまたはキーボードアクセス補助設定を設定したりします。詳細については、3.4項「個人用」(80 ページ)を参照してください。

システム

言語、ネットワーク接続、ソフトウェアソースおよび更新、お気に入りのアプリケーション、電源管理などのシステム設定を指定できます。GNOMEでログインまたはシャットダウンのセッションを処理する方法を定義し、Beagle検索設定を変更します。詳細については、3.5項「システム」(81 ページ)を参照してください。

図 3.1 GNOMEコントロールセンター



システム全体の設定を変更するため、コントロールセンターではルートパスワードを入力してYaSTを起動するように要求されます。これは、ハードウェア、グラフィカルユーザインタフェース、インターネットアクセス、セキュリティ設定、ユーザ管理、ソフトウェアのインストール、システムアップデートおよび情報などの管理者設定が当てはまります。YaSTの指示に従ってこれらの設定を設定します。YaSTの使用の詳細については、統合されたYaSTヘルプテキストまたは導入ガイド(↑導入ガイド)を参照してください。

この章では、GNOMEコントロールセンターで直接(YaSTを使わずに)変更できる、個々の設定について説明します。

3.2 ハードウェア

次のセクションでは、キーボードやマウスの初期設定などのGNOMEデスクトップのハードウェア部分を設定し、リムーバブルドライブ(およびその他のメディア)、画面解像度を処理する例を紹介します。

3.2.1 ブルートゥース設定の指定

Bluetoothモジュールでは、Bluetoothを経由するマシンを表示するかどうか、Bluetooth通信で使用されているマシンの名前、およびパネルにBluetoothアプレットを表示するかどうかを設定できます。Bluetooth接続を設定するには、次の手順に従います。

- 1 [コンピュータ] > [コントロールセンター] > [システム] > [Bluetooth] の順にクリックし、GNOMEパネルでBluetoothアイコンを右クリックし、[設定] を選択します。
- 2 [一般] タブでは、GNOMEパネルの通知領域でBluetoothアプレットアイコンを表示するかどうかを設定します。アプレットのアイコンを右クリックし、Bluetoothデバイスとの接続およびファイル転送について設定します。
- 3 [一般] タブで、Bluetoothアダプタのオンとオフを切り替えるために、[Power switches(出力スイッチ)] のオプションを使用します。使用可能なオプションは、使用するハードウェアに応じて異なります。
- 4 Bluetoothハードウェアが使用可能であり、オンに切り替えると、使用可能なタブが追加されます。[Visibility setting(表示設定)] で、Bluetoothネットワーク上のマシンを表示するかどうかを設定します。[Temporary visible(一時的に表示)] オプションを選択した場合は、スライダを使用して表示する期間を設定します。[Friendly name(公開する名前)] オプションでは、Bluetoothネットワークのコンピュータの名前を指定します。
- 5 [Known devices(認識されているデバイス)] セクションには、認識されているすべてのBluetoothデバイスのリストが表示されます。プラスアイコンのボタンを使用して、新しいデバイス接続を設定します。
- 6 [閉じる] をクリックします。

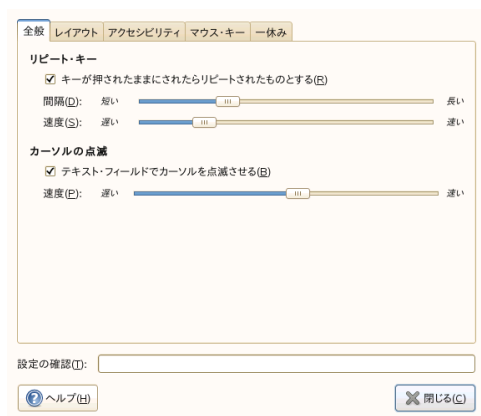
Bluetoothを経由するファイル共有を設定するには、次の手順に従います。

- 1 [コンピュータ] > [コントロールセンター] > [システム] > [個人的なファイルの共有] をクリックします。
- 2 [Share Files over Bluetooth(Bluetoothを介したファイルの共有)] セクションで、~/Publicディレクトリ内のファイルの共有を設定します。[Share Public files over Bluetooth(Bluetoothを介した公開ファイルの共有)] を使用して、このディレクトリの共有を有効または無効にします。リモートデバイスで公開ファイルを削除できるかどうか、およびリモートデバイスをコンピュータに接続する必要があるかどうかを指定します。
- 3 [Receive Files over Bluetooth(Bluetoothを介したファイルの受信)] セクションで、どのデバイスからBluetoothを経由して送信されたファイルを受信するか、および受信したファイルについて通知を受けるかどうかを指定します。
- 4 [閉じる] をクリックします。

3.2.2 キーボードの初期設定の変更

自動繰り返しの初期設定または入力中断セッションなどのキーボード設定の一部を変更するには、[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ハードウェア] > [キーボード] をクリックします。

図 3.2 [Keyboard Preferences] ダイアログ



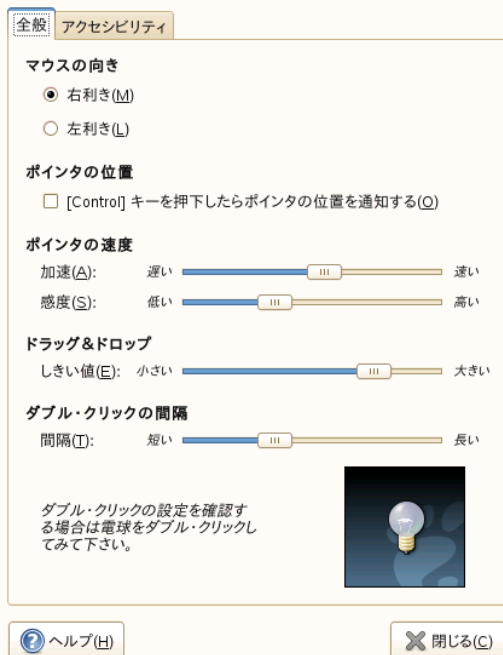
- 1 **[一般]** タブで、個別の遅延を伴うキーボードの繰り返し入力の有効化と速度オプション、カーソルの点滅の有効化と無効化、速度の定義など、一般的なキーボード設定の一部を設定できます。それぞれのオプションの詳細については、**[Help]** をクリックしてください。
- 2 キーボードモデルを選択するには、**[レイアウト]** タブをクリックし、**[キーボードモデル]** リストからモデルを選択します。
- 3 新しい言語レイアウトを追加するには、**[レイアウト]** タブで **[追加]** をクリックし、リストに追加する言語レイアウトを選択します。さまざまなロケールに合わせて異なったレイアウトを選択できます。デフォルトとしてレイアウトを1つ選択します。
- 4 **[入力休憩]** タブで、入力中断の初期設定を設定できます。それぞれのオプションの詳細については、**[ヘルプ]** をクリックしてください。
- 5 すべてのオプションが希望どおりに設定されたら、**[閉じる]** をクリックします。

キーボードアクセス性オプションの設定については、「アクセス可能なキーボード」(94 ページ)を参照してください。

3.2.3 マウスの設定

マウスオプションを変更するには、**[コンピュータ]** > **[コントロールパネル]** > **[ハードウェア]** > **[マウス]** をクリックして、**[マウスの初期設定]** を開きます。

図 3.3 [マウスの初期設定] ダイアログ



- 1 [一般] タブは、いくつかのセクションから構成されます。[マウスの向き] セクションでラジオボタンを使用して、マウスボタンを左利き用または右利き用に設定します。
- 2 [一般] タブの [ポインタを探す] セクションでオプションをチェックすると、Ctrlを押して離れたときのマウスポインタアニメーションが有効になります。この機能は、マウスポインタの位置を探すのに便利です。
- 3 [一般] タブの [最大ポインタ速度] セクションのスライダを使用して、マウスポインタの [アクセラレーション] および [感度] を定義します。
- 4 [一般] タブの [ドラッグアンドドロップ] セクションでスライダを使用して、操作がドラッグアンドドロップ操作として解釈されるためにポイントにより項目を移動する必要がある距離を変更します。
- 5 [一般] タブの [ダブルクリックタイムアウト] セクションのスライダを使用して、ダブルクリックの2回のクリック間の最大遅延を定義します。2

回のクリックの間隔がここで指定した間隔より大きい場合、ダブルクリックではなく、2回の別個のクリックとして操作が解釈されます。電球アイコンを使用してダブルクリックの感度をチェックします。1回のクリックでは一時的に点灯しますが、ダブルクリックでは点灯し続けます。

- 6 すべてのオプションが希望どおりに設定されたら、**[閉じる]** をクリックします。

マウスアクセス性オプションの設定については、4.3.1項「マウスの動作」(93 ページ)を参照してください。

3.2.4 プリンタのインストールと設定

印刷モジュールでは、使用可能なローカルサーバまたはリモートCUPSサーバに接続し、プリンタを設定できます。

プリンタモジュールを起動するには、**[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ハードウェア]**、**> [プリンタ]** の順にクリックします。詳細については、第7章 **プリンタの管理** (119 ページ)を参照してください。

3.2.5 画面の設定

画面の解像度、更新レート、および向きを指定したり、複数画面を設定するには、**[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ハードウェア] > [ディスプレイ]** の順にクリックし、オプションを変更します。

- 1 **[Detect Displays(ディスプレイの検出)]** を押し、コンピュータに接続するすべてのモニタを検出します。
- 2 モニタのオプションを設定するには、青いプレビュー領域でモニタのアイコンをクリックし、下にあるドロップダウンリストを使用して **[解像度]**、**[更新レート]**、および **[回転]** (向き)を設定します。
- 3 複数のモニタを使用している場合、青いプレビュー領域のアイコンを適切な場所にドラッグすることにより、対応する場所を設定できます。また、**[ミラー画面]** をチェックすることにより、同じイメージを表示するようにモニタを設定できます。

- 4 画面を回転できるアプレットアイコンをシステムトレイに表示するには、
[ディスプレイをパネルに表示する] をチェックします。

図 3.4 [Monitor Resolution Settings(解像度設定の監視)] ダイアログ



画面の回転のサポートについては、項「ディスプレイの回転」(第19章
タブレットPCの使用, ↑管理ガイド)を参照してください。

3.2.6 サウンド環境設定の実行

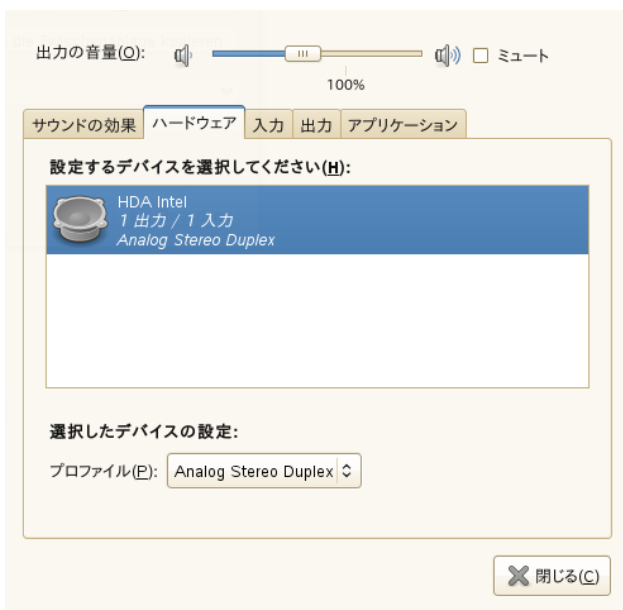
サウンド設定ツールでは、サウンドデバイスを管理できます。特定のイベントが発生したときに、再生するサウンドも指定できます。

[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ハードウェア] > [サウンド] の順にクリックして、サウンド設定ツールを起動します。

サウンドデバイスの設定

さまざまなサウンドタイプに使用するデバイスを設定するには、[ハードウェア] タブを使用します。

図 3.5 サウンドデバイスの設定



使用可能なサウンドデバイスのリストからシステムに存在するデバイスを1つ選択します。リストの下で、**[選択したデバイスの設定]** ドロップダウンリストから、目的のサウンドデバイス設定を選択します。ここでは、デバイスをオフにしたり、その入力または出力だけを使用したり、サウンドデバイスの入力と出力の両方を使用できます。

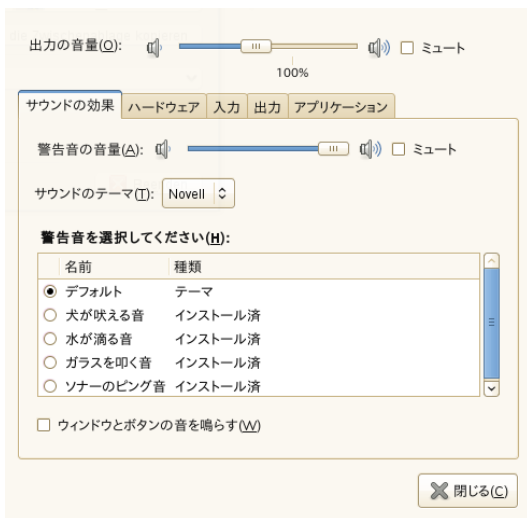
[入力] タブを使用して、入力デバイス音量を設定したり、入力を一時的にミュートします。 **[コネクタ]** ドロップダウンリストを使用して、入力チャネルを指定します。複数のサウンドデバイスがある場合、**[サウンドの入力デバイスを選択してください]** リストでオーディオ入力用のデフォルトデバイスを選択することもできます。

[出力] タブを使用して、デバイスのリストからサウンド出力用のデバイスを設定します。リストの下で、サウンドバランスや出力チャネルなど、選択した出力サウンドデバイスの詳細設定を設定できます。

サウンド効果の設定

[サウンドの効果] タブを使用して、サウンドイベント機能を設定します。

図 3.6 サウンド効果設定の指定



[警告音の音量] で、サウンド効果の再生時の音量を指定します。[ミュート] をチェックして、サウンド効果を無効にします。

「サウンドのテーマ」を選択するか、「なし」を選択してサウンドテーマをオフにします。

3.2.7 タッチパッドの設定

タッチパッドモジュールは、タッチパッドの動作を設定する場合に使用します。このモジュールは、ラップトップコンピュータなどの、タッチパッドのあるコンピュータでのみ利用できます。通常は、デフォルトの動作を変更しないでください。[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ハードウェア] > [タッチパッド] をクリックし、タッチパッドモジュールを開始します。これにより、タッチパッドの有効化または無効化、感度、タッピング、およびスクロールの操作の設定を行うことができます。このモジュールではまた、マウスポインタのアクセラレーションを制御します。

3.3 外観

次のセクションでは、デスクトップ背景とスクリーンセーバー、3Dデスクトップ効果、テーマ、ウィンドウの動作、メニューなど、GNOMEデスクトップの外観の一部を設定する例を紹介します。

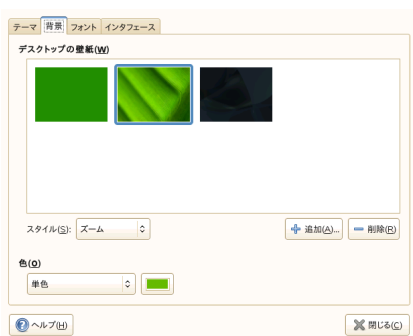
3.3.1 デスクトップの背景の変更

デスクトップの背景とは、デスクトップに適用された画像またはカラーです。デスクトップの背景は、次の方法でカスタマイズできます。

- デスクトップの背景の画像を選択します。画像は、デスクトップの背景の色の上に重なります。デスクトップの背景の色は、透明な画像を選択した場合や、画像がデスクトップ全体を覆っていない場合に表示されます。
- デスクトップの背景の色を選択します。単色を選択するか、2色を選択してグラデーション効果を出すこともできます。グラデーション効果は、1つの色がもう1つの色と徐々に混ざり合う視覚効果です。

デスクトップの環境設定を変更するには、次の手順に従います。

- 1 [コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ルックアンドフィール] > [外観] > [デスクトップの背景] をクリックします。



- 2 背景の画像を変更するには、リストから背景を1つ選択し、デスクトップに画像を配置するスタイルを選択します。デスクトップは、すぐに新しい設定での表示に更新されます。
- 3 カスタム画像を使用するには、[追加] をクリックしてファイルシステムからイメージファイルを選択します。
- 4 背景に画像を表示しない場合は、リストから色の背景を選択し、[色] ドロップダウンリストとカラーセレクトアボタンのオプションを使用して、カラースキーマを指定します。デスクトップは、すぐに新しい設定での表示に変わります。
- 5 選択を確認して [閉じる] をクリックします。

3.3.2 フォントの設定

アプリケーション、ウィンドウ、ターミナル、デスクトップで使用するフォントを選択するには、[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ルックアンドフィール] > [外観] > [フォント] をクリックします。

図 3.7 フォントの環境設定ダイアログ



ダイアログの上部には、アプリケーション、ドキュメント、デスクトップ、ウィンドウタイトルのフォント、およびターミナル用固定幅フォントが表示されます。いずれかのボタンをクリックして選択ダイアログを開くと、フォントファミリー、スタイル、およびサイズを設定できます。それぞれのオプションの詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。

[レンダリング] セクションで、画面上でフォントをレンダリングする方法を変更できます。[モノクロ] (スムージングを適用しないモノクロレンダリング)、[最適なシェイプ] (正確な文字形状に対して最適化されたレンダリング)、[最適なコントラスト] (高いコントラストに対して最適化されたレンダリング)、および [サブピクセルのスムージング] (LCDサブピクセル構造を利用) の4つの基本オプションがあります。[詳細] をクリックした後、表示解像度、スムージング、ヒント、およびサブピクセルの順序に関する詳細なオプションを設定できます。

ティップ: フォントの追加

システムにフォントを追加する方法については、項「フォントのインストールと設定」(第14章 *X Window* システム, ↑*管理ガイド*) を参照してください。

3.3.3 メニューとツールバーの設定

メニューとツールバーの外観と動作を設定することができます。[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ルックアンドフィール] > [外観] > [インタフェース] をクリックします。

メニューにアイコンを表示する場合は、[メニューにアイコンを表示] を選択します。メニュー項目によっては、アイコンがないものもあります。

メニュー項目に対して新しいキーボードショートカットを定義する場合は、[編集可能メニューショートカットキー] を選択します。このオプションを有効にすると、変更するメニュー項目の上にマウスポインタを移動してから、新しいキーの組み合わせを押すことにより、アプリケーションのショートカットキーを変更することができます。ショートカットキーの組み合わせを削除するには、目的のメニュー項目上にマウスポインタを移動してから、<<—> キーまたはキーを押します。

重要項目: 新しいキーボードの組み合わせはデフォルトを変更できます

以前に他に割り当てたキーボードの組み合わせを新たに割り当てても、警告は表示されません。この場合、前に割り当てられている項目のショートカットキーは削除され、新しい方に置換されます。デフォルトのキーボードショートカットに自動的に復元する手段はありません。キーボードショートカットを、手作業で割り当てなおす必要があります。

この機能では、コピー用のCtrl + Cキーなど、標準的にすべてのアプリケーションに割り当てられているショートカットでも維持されません。そのため、GNOMEアプリケーションに不整合が生じる可能性があります。

GNOME標準アプリケーションへの、ツールバーボタンラベルの表示方法を指定するには、次のいずれかのオプションを選択します。

アイコン下にテキスト

各ボタンのアイコンの下にアイコンラベルを表示します。

Text beside icons

アイコンをツールバーに表示し、重要なアイコンの横にテキストを表示します。

アイコンのみ

アイコンのみを表示します。テキストラベルは表示しません。

テキストのみ

各ボタンにテキストラベルを表示します。アイコンは表示しません。

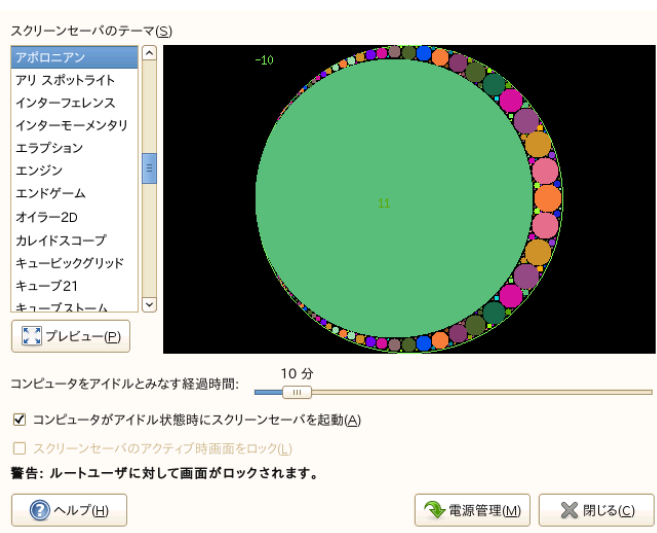
ダイアログに選択したオプションのプレビューが表示されます。

3.3.4 スクリーンセーバの設定

スクリーンセーバは、コンピュータが一定時間使用されていないときに、画面をブランクにするか、グラフィックを表示するプログラムです。スクリーンセーバは本来、画像の焼き付きからモニタを保護するために使用されていましたが、今では、主にエンターテインメントやセキュリティ上の理由で使用されています。

スクリーンセーバを設定するには、[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ルックアンドフィール] > [スクリーンセーバ] をクリックします。

図 3.8 スクリーンセーバ環境設定ダイアログ



左のリストから、好みのスクリーンセーバのテーマを選択します。または、**「ランダム」**を選択してスクリーンセーバを無作為に選択するか、**「ブランク画面」**のみを選択します。現在選択されているスクリーンセーバのプレビューが右側に表示されます。また、**「プレビュー」**ボタンを押すことにより、全画面モードで選択したスクリーンセーバをテストできます。

スライダを使用して、スクリーンセーバが有効になるまでにコンピュータが待機する時間を指定します。指定した時間の後にスクリーンセーバを有効にする場合は、**「コンピュータがアイドル状態時にスクリーンセーバを起動」**チェックボックスをチェックする必要があります。また、スクリーンセーバが有効になったときに画面を自動的にロックする場合は、**「スクリーンセーバのアクティブ時画面をロック」**チェックボックスをチェックする必要があります。

また、**「電源管理」**をクリックして、ここから全般的な電源管理オプションにアクセスできます。詳細については、2.10項「デスクトップの電源管理」(33 ページ)を参照してください。

3.3.5 テーマの選択

テーマとは、デスクトップの各部の外観を指定する、体系的な設定のグループです。テーマを選択してデスクトップの外観を変更できます。[外観] ツールの [テーマ] タブを使用して、事前にインストールされたテーマのリストからテーマを選択します。利用可能なテーマには、アクセス補助の必要なユーザ向けのテーマも含まれています。

テーマを設定するには、[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ルックアンドフィール] > [外観] > [テーマ] をクリックします。

デスクトップとアプリケーションの基本的な外観とカラー設定は、テーマを使用して制御されます。プリインストールされたさまざまなテーマから選ぶことができます。リストからスタイルを選択すると、自動的に適用されます。

[Customize(カスタマイズ)] で開く別のダイアログで、ウィンドウの内容、ウィンドウの境界、およびアイコンなど、デスクトップ要素のスタイルをカスタマイズできます。変更を行い、[閉じる] をクリックしてダイアログを終了させると、テーマがカスタムテーマに切り替わります。[名前を付けて保存] をクリックして、カスタム名で変更したテーマを保存します。インターネットやその他のソースでは、.tar.gzファイルとして、GNOME用の追加テーマが数多く提供されています。これらは [インストール...] でインストールします。

[Customize Theme(テーマのカスタマイズ)] ダイアログには次のタブとオプションが存在します。

コントロール

テーマ用のコントロール設定は、ウィンドウ、パネル、およびアプレットの外観を決定します。また、ウィンドウ、パネル、およびアプレットに表示されるGNOME標準インタフェース項目(メニュー、アイコン、ボタンなど)の外観も決定します。使用できるコントロール設定のオプションの一部は、特別なアクセス補助の要件を満たすように設計されています。

[Customize Theme(テーマのカスタマイズ)] ダイアログの [コントロール] タブで変数の設定を選択できます。

Colors

[Customize Theme(テーマのカスタマイズ)] ダイアログの [色] タブで、ウィンドウのテキストの色、入力ボックス、選択した項目、およびツールヒント(およびテキストの背景色)を設定できます。

ウィンドウ境界

テーマのウィンドウ境界設定は、ウィンドウ境界(ウィンドウ装飾)を決定します。[Customize Theme(テーマのカスタマイズ)] ダイアログの [ウィンドウ境界] タブでウィンドウ境界の設定を選択できます。

アイコン

テーマのアイコン設定は、パネルおよびデスクトップ背景のアイコンの外観を決定します。[Customize Theme(テーマのカスタマイズ)] ダイアログの [アイコン] タブでアイコンの設定を選択できます。

ポインタ

マウスポインタのスタイルおよびサイズは、[Customize Theme(テーマのカスタマイズ)] ダイアログの [Pointer(ポインタ)] タブで設定できます。

手順 3.1 カスタムテーマの作成

テーマの環境設定ツールに一覧表示されるテーマでは、コントロール設定、ウィンドウフレームオプション、およびアイコンオプションのさまざまな組み合わせが提供されています。さまざまなオプションの組み合わせでカスタムテーマを作成できます。カスタムテーマを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ルックアンドフィール] > [外観] > [テーマ] をクリックします。
- 2 リストからテーマを選択し、[カスタマイズ] をクリックします。
- 3 [コントロール] タブページのリストから、カスタムテーマで使用するコントロールオプションを選択します。
- 4 [色] タブをクリックし、インタフェースのウィンドウ、入力ボックス、テキスト、その他の部分で使用する色を選択します。一部のコントロールテーマでは、カスタム色の設定がサポートされません。
- 5 [ウィンドウ境界] タブをクリックして、カスタムテーマに使用するウィンドウフレームオプションを選択します。
- 6 [アイコン] タブをクリックして、カスタムテーマに使用するアイコンオプションを選択します。

- 7 [ポインタ] タブをクリックして、カスタムテーマに使用するマウスポインタオプションを選択します。
- 8 [閉じる] > [名前を付けて保存] の順にクリックします。
[テーマの保存] ダイアログが表示されます。
- 9 ダイアログに名前とカスタムネームの短い説明を入力して、[保存] をクリックします。カスタムテーマが、利用可能なテーマのリストに表示されます。

手順 3.2 新しいテーマのインストール

利用可能なテーマのリストにテーマを追加できます。新しいテーマは、圧縮されたアーカイブファイル(.tar.gzファイル)であることが必要です。

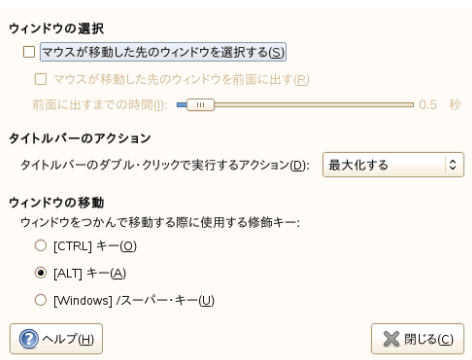
- 1 [コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ルックアンドフィール] > [外観] > [テーマ] をクリックします。
- 2 [インストール...] をクリックします。
- 3 ファイルを選択して、[開く] をクリックします。
- 4 新しいテーマを適用する場合は、直ちに [Apply New Theme(新しいテーマの適用)] をクリックします。また、[Keep Current Theme(現在のテーマを維持)] を使用することもできます。

3.3.6 ウィンドウの動作のカスタマイズ

ウィンドウの環境設定ツールを使用して、デスクトップのウィンドウの動作をカスタマイズします。マウスポインタを置いたときや、タイトルバーをダブルクリックしたときのウィンドウの反応を指定したり、アプリケーションウィンドウを移動させるときに保持するキーを定義できます。

ウィンドウの動作をカスタマイズするには、[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ルックアンドフィール] > [ウィンドウ] をクリックします。

図 3.9 ウィンドウの環境設定ダイアログ



複数のアプリケーションウィンドウがデスクトップにある場合、デフォルトで最後にクリックしたウィンドウがアクティブになっています。[マウスが移動した先のウィンドウを選択する]を有効にして、この動作を変更します。*[Raise Selected Window after an Interval(一定間隔の後選択したウィンドウを上)]*を有効にして、スライダーで待ち時間を調整します。この設定で、選択したウィンドウはすぐ上になります。

[タイトルバーのアクション]で、ウィンドウのタイトルバーをダブルクリックしたときに実行される処理を指定できます。ドロップダウンリストから目的のアクションを選択します。可能な操作には、ウィンドウの最小化、一方向または両方向へのウィンドウの最大化、タイトルバーのみを残したロールアップなどがあります。タイトルバーのデフォルトの動作では、両方向に最大化します。

ラジオボタンを使用して、ウィンドウの移動に使用するモディファイアキーを選択します(<Ctrl>、<Alt>、またはWindowsキー)。

3.3.7 ファイル管理の初期設定の指定

ファイル管理初期設定には、GNOMEファイルマネージャNautilusの設定と、リムーバブルメディアの処理に関する設定が含まれます。[コンピュータ] > [コンピュータセンター] > [ルックアンドフィール] > [ファイル管理]をクリックするか、またはNautilusから直接[編集] > [設定]をクリックすることにより、コントロールセンターの初期設定にアクセスできます。

図 3.10 ファイルマネージャの設定

The screenshot shows the '表示' (View) tab of the Nautilus settings dialog. It contains several sections for configuring the file manager's appearance and behavior:

- デフォルトの表示** (Default View):
 - 新しいフォルダの表示形式(N): アイコン表示 (Icon view)
 - アイテムの配置方式(A): 名前順 (Sorted by name)
 - ☒ フォルダをファイルより前に配置する(E) (Place folders before files)
 - ☐ 隠しファイルとバックアップ・ファイルを表示する(B) (Show hidden files and backups)
- アイコン表示の既定値** (Icon View Defaults):
 - デフォルトのズームレベル(Z): 100%
 - ☐ コンパクトな配置にする(U) (Use compact view)
 - ☐ アイコンの横にラベルを配置する(I) (Place labels next to icons)
- コンパクト表示の既定値** (Compact View Defaults):
 - デフォルトのズームレベル(D): 100%
 - ☒ 全ての列を同じ幅にする(L) (Make all columns the same width)
- 一覧表示の既定値** (List View Defaults):
 - デフォルトのズームレベル(E): 50%
- ツリー表示の既定値** (Tree View Defaults):
 - ☒ フォルダのみ表示する(Q) (Show only folders)

At the bottom, there are buttons for 'ヘルプ(H)' (Help) and '閉じる(C)' (Close).

- 1 [表示] タブで、さまざまなNautilusビューに対するオプションを定義します。たとえば、Nautilusで隠しファイルおよびバックアップファイルを表示するかどうかを選択します。
- 2 [動作] タブで、さまざまなオプションを定義します。たとえば、シングルマウスクリックまたはダブルマウスクリックでNautilusのファイルまたはフォルダを開いたり、ファイルシステムのファイルまたはフォルダをゴミ箱に移動するのではなく直接削除する [削除] メニュー項目をNautilusに含めたりできます。
- 3 [ディスプレイ] タブで、Nautilusの日付フォーマットとアイコンキャプションの表示方法を設定します。
- 4 [List Columns(カラムのリスト)] タブに切り替え、Nautilusに表示するカラムとその表示順序を設定します。

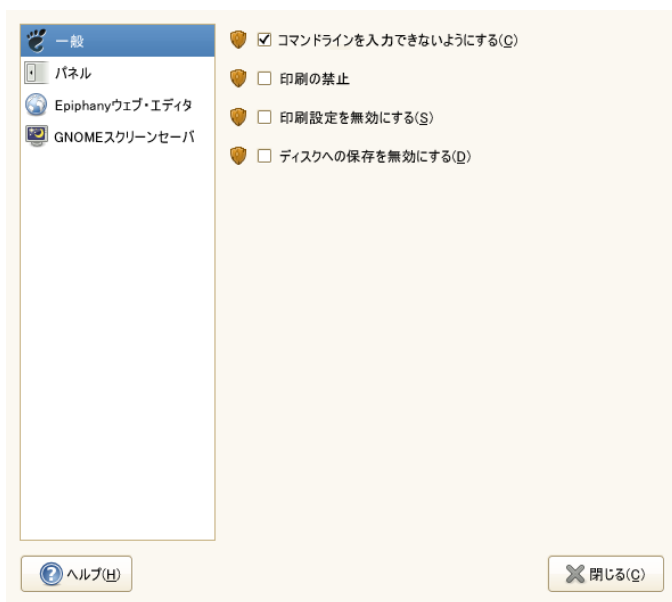
- 5 [プレビュー] タブをクリックし、**Nautilus**でプレビューを表示するファイルと、フォルダに含まれる項目の数を表示するかどうかを指定します。
- 6 [メディア] タブをクリックし、音楽**CD**、ビデオ**DVD**、空のディスク、メディアプレーヤ、デジタルカメラ、その他のデバイスなど、メディアが接続したときに常に自動的に実行する処理を指定します。一般に、接続時にデバイスの動作を変更しない場合は、この設定を変更する必要はありません。デバイスを初めて接続するときや、デバイスが予期しない動作をしたり、期待通りに動作しない場合は、特定のデバイスの設定を変更してください。
- 7 使用可能なオプションの詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
- 8 変更を適用するには、[閉じる] をクリックします。

3.3.8 デスクトップ機能のロック

SUSE Linux Enterprise Desktopには、特定のデスクトップ機能を無効(ロックダウン)するグラフィカルなロックダウンエディタ(**pessulus**パッケージ)が付属しています。これは、ユーザがコンピュータ上で実行できる操作を制限する場合に役立ちます。たとえば、トレードショーにコンピュータを出展し、誰もが操作できるようにした場合は、コマンドラインでの操作を無効にした方が安全です。

pessulusパッケージがすでにインストールされている場合は、メインメニューから [コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ロックアンドフィール] > [ロックダウンエディタ] を選択するか、または**Alt + F2**を押して「**pessulus**」を入力することにより、ロックダウンエディタを起動します。

図 3.11 一般的なロックダウンエディタ設定



ロックダウンエディタが起動すると、GConfの必須設定ソース(/etc/gconf/gconf.xml.mandatory)への接続を試みます。rootとしてpessulusを実行した場合、この設定ソースにアクセスでき、各設定のチェックボックスの隣に錠のアイコンが表示されます。設定が必須かどうか指定するために錠をクリックします。設定が必須である場合、通常のユーザは設定を変更または一時変更することはできません。必須の設定ソースにアクセスできない場合は、錠のアイコンは表示されません。この場合、無効な設定はすべてユーザのデフォルトの設定ソースに保存され、後でgconf-editorやgconftool-2などの他のツールを使用して変更できます。GConfおよび必須設定ソースの詳細については、『*GNOME Desktop System Administration Guide*(GNOMEデスクトップシステム管理ガイド)』の「Using GConf(GConfの使用)」 [<http://library.gnome.org/admin/system-admin-guide/stable/>]を参照してください。

左側のカテゴリをクリックすると、このカテゴリに対し無効にできる設定が表示されます。

- 1 コマンドライン、ディスクへの保存、および印刷へのアクセスを無効にする(または、ユーザが印刷設定を変更できないようにする)には、**[一般]** カテゴリの関連オプションを設定します。
- 2 **[パネル]** カテゴリのオプションを使用して、パネルをロックし、指定するパネルアプレットの無効化と、強制終了、ロック画面、ログアウトオプションの無効化を行うことができます。
- 3 **[Epiphany Web Browser(Epiphany Web ブラウザ)]** カテゴリのオプションを使用して、Epiphanyの機能へのアクセスを制御します。
- 4 **[GNOME Screensaver(GNOME スクリーンセーバ)]** カテゴリでオプションを使用して、(スクリーンセーバのアクティブ時の)画面のロック、(**[unlock(ロック解除)]** ダイアログボックスの **[delay(遅延)]** オプション後の)ログアウトの有効化または無効化、および **[unlock(ロック解除)]** ダイアログボックスの **[ユーザの切り替え]** オプションの有効化または無効化を行うことができます。
- 5 各カテゴリの使用可能なオプションの詳細については、**[ヘルプ]** をクリックしてください。
- 6 必要なすべてのオプションを設定したら、**[閉じる]** をクリックして変更を適用します。

3.3.9 メインメニューのカスタマイズ

メインメニューツールを使用して、伝統的なGNOMEメインメニューをカスタマイズします。従来のGNOMEメニューはデフォルトで有効になっていませんが、パネルを右クリックして **[パネルに追加]** > **[従来のメインメニュー]** > **[追加]** > **[閉じる]** の順に選択することにより、GNOMEパネルに追加できます。従来のGNOMEメインメニューをカスタマイズするには、**[コンピュータ]** > **[コントロールセンター]** > **[ルックアンドフィール]** > **[メインメニュー]** を使用します。

図 3.12 メインメニューエディタ



現在のメインメニューのサブメニューがメインウィンドウの左側に表示され、選択したサブメニューに属する項目が右側に表示されます。サブメニューのグループがそのサブメニューの下にネストされます。項目を検索するには、[メニュー] リストのサブメニューの隣にある矢印をクリックし、その項目を含むグループを選択し、[アイテム] リストで項目を検索します。

注記: メインメニューの変更の影響

メインメニューに加えた変更は、以降のシステムの更新時に上書きされません。最新のメニュービューが生成された後、変更が適用されます。

手順 3.3 メインメニューの編集

メインメニューに項目を表示する順序の変更、メニュー項目の名前の変更、メニュー項目の表示または非表示、メニューからの項目の削除、新しいメニュー項目の追加を行うことができます。たとえば、頻繁に使用するアプリケーションを見つけやすくするために、メニューまたはグループの最上部にアプリケーションに配置した方が良い場合があります。アプリケーションのインストール時に、メインメニューに新しい項目を追加できます。これは、メニュー上で現在表示されていないその他のアプリケーションが存在する場合に役立ちます。また、ディレクトリ、リンク、その他の種類の項目をメニューに追加できます。

- 1 メニュー項目を移動するには、右の **[項目]** リストでメニュー項目をクリックし、メニューの新しい場所にドラッグします。同じメニュー内の新しい場所に項目を移動するか、または(新しいメニューまたはグループに移動するために) **[メニュー]** リストの項目にドロップできます。または、**[上へ移動する]** および **[下へ移動する]** ボタンを使用して、メニューから項目の場所を変更します。
- 2 既存のメニュー項目の名前を変更するには、**[項目]** リストの項目を右クリックし、**[プロパティ]** を選択し、新しい名前を入力します。
- 3 項目を非表示にするには(したがって、メニューにその項目が表示されなくなります)、**[項目]** リストの項目の隣にあるチェックボックスをオフにします。チェックボックスが有効な場合、その項目がメニュー内で現在表示されていることを示します。項目を非表示にしても、項目は依然として **[項目]** リストに維持されており、いつでもメニューに再表示できます。
- 4 **[項目]** リストから項目を削除するには、項目を右クリックし、**[削除]** をクリックします。メニューで削除した項目を再表示するには、新しいアプリケーションの場合と同様にその項目を追加する必要があります。
- 5 新しい項目を追加するには、次の手順に従います。
 - 5a **[メニュー]** リストで、アプリケーションを追加するグループを含むメニューの隣の矢印をクリックし、グループを選択します。**[項目]** リストに、グループの内容が表示されます。
 - 5b **[新しい項目]** をクリックし、追加するメニュー項目の種類を選択します。たとえば、アプリケーションを追加するには、**[アプリケーション]** を選択します。
 - 5c **[参照]** をクリックし、追加する項目を選択します。
 - 5d 新しいメニュー項目の名前を入力します。
 - 5e マウスポインタを合わせたときにメインメニューに簡単な説明を表示する場合は、**[コメント]** フィールドにその記述を入力します。
 - 5f 新しい項目にアイコンを割り当てる場合は、左側のイメージフレームをクリックし、項目のアイコンを選択します。アイコンを選択しない場合は、メニューにアイコンなしで項目が表示されます。

- 6 デフォルトのメニューレイアウトを復元する場合は、 **[Revert(復元)]** をクリックします。
- 7 必要なすべてのオプションを設定したら、 **[閉じる]** をクリックして変更を適用します。

注記

最初にメインメニューアプリケーションを使用してメニューを編集した場合は、次のログイン時まで変更は有効になりません。以降の変更は、直ちに反映されます。

3.3.10 デスクトップ効果の設定

Compizは、ウィンドウ管理で高速なコンポジットデスクトップ効果を適用するために3Dグラフィックスハードウェアを使用するXウィンドウシステム用のコンポジットウィンドウマネージャです。効果は、ロード可能なプラグインとして実装されます。Compizにより、デスクトップを回転する3Dキューブに変換し、ウィンドウを重ねないように並べ、サムネイルを見ながらタスクを切り替えることができます。ウィンドウを半透明または透明にしたり、デスクトップ画面を拡大、縮小したり、シャドウ、フェーディング、およびトランスフォーメーションなどのウィンドウ効果を使用することができます。また、ウィンドウの移動時に他のウィンドウや画面の端に合わせるように設定することもできます。

デスクトップ効果を有効にするには、3Dをサポートしているグラフィックカードが必要です。また、そのカードを利用するためのLinux用グラフィックドライバも必要です。このドライバは、LinuxカーネルからのOpenGL(または3D)リクエストを処理できなければなりません。設定がデスクトップ効果に対して互換性を持つ場合、デフォルトで有効になります。設定がデスクトップ効果をサポートしない場合、起動時に警告が表示されます。

デスクトップ効果を有効または無効にするには、次の手順に従います。

- 1 **[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ルック&フィール] > [デスクトップ効果]** の順にクリックします。



- 2 デスクトップ効果に対してシステムが設定されている場合は、[デスクトップ効果を有効] をチェックします。デスクトップ効果を有効なまま維持するには、[開く] ダイアログで [はい] を押します。デスクトップ効果を有効なまま維持しない場合は、デスクトップ効果は10秒で自動的に無効になります。

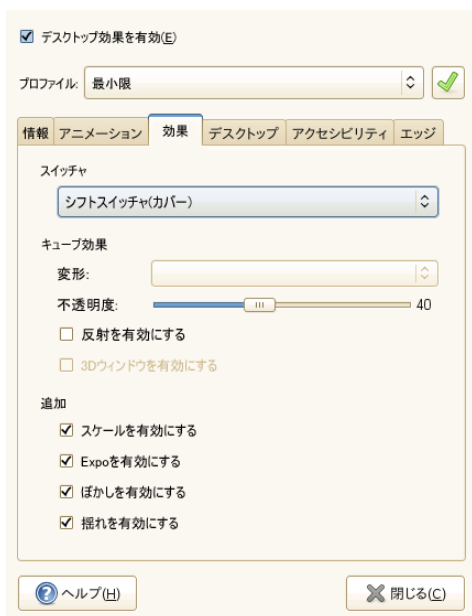
デスクトップ効果を無効にするには、[デスクトップ効果を有効] オプションのチェックをオフにします。

- 3 これで、デスクトップ効果のデフォルトセットが有効になります。[デスクトップ効果] ダイアログの複数のタブで有効な効果とその設定を変更できます。また、ドロップダウンリストから [プロファイル] を選択するだけで、この設定を変更できます。選択したプロファイルを有効にするには、緑のボタンを押します。

デスクトップ効果の変更

デスクトップ効果の現在の設定を変更するには、[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ルック&フィール] > [デスクトップ効果] の順に選択します。

図 3.13 デスクトップ効果の設定



- 1 [情報] タブを使用して、現在のデスクトップ効果設定に関する一般的な情報を取得します。
- 2 [アニメーション] タブのオプションを使用して、ウィンドウの開閉時、フォーカス時、最小化時の処理を指定します。
- 3 [効果] タブのオプションを使用して、使用するスイッチの種類を指定します。これは、<Alt>+<Tab>の組み合わせを使用してウィンドウ間で切り替えを行うときに適用されるデスクトップ効果です。

[キューブ効果] の下の設定オプションを使用して、<Ctrl>+<Alt>+←または<Ctrl>+<Alt>+→で仮想デスクトップを切り替えたときの動作を設定します。これらのオプションは、デスクトップキューブの使用時にのみ使用できます。

- 4 [デスクトップ] タブのオプションを使用して、使用する仮想デスクトップの表現(3次元のデスクトップキューブまたは平面のデスクトップウォール)と、使用する仮想デスクトップの数を設定します。

- 5 **[アクセス性]** タブのオプションを使用して、画面および領域のズームを設定します。
- 6 **[端]** タブを使用して、アクティブな画面の端に関連する機能を設定します。
- 7 それぞれのオプションの詳細については、**[ヘルプ]** をクリックしてください。
- 8 必要なすべてのオプションを設定したら、**[閉じる]** をクリックして変更を適用します。

注記: 詳細設定ツール

詳細設定ツールである**CompizConfig**設定マネージャは、コマンド`ccsm`でターミナルエミュレータから起動できます。これにより、**GNOME**コントロールセンターの簡略化されたツールよりも広範な設定オプションを選択できます。

`gconf-editor`を使用して、デスクトップ効果の設定を変更することもできます。

- 1 **[コンピュータ]** > **[他のアプリケーション]** > **[システム]** > **[GNOME 設定エディタ]** の順にクリックするか、**Alt + F2**を押して、「`gconf-editor`」と入力します。
- 2 `apps/compiz/general`および`apps/compiz/plugins`レジストリフォルダに移動して、適切な変更を行います。
- 3 **[ファイル]** > **[終了]** の順にクリックして、設定エディタを終了します。

デスクトップ効果のショートカット

デスクトップ効果を実行するために使用するデフォルトのキーストロークとマウスの移動を、次の表に示します。**[一般]** > **[一般オプション]** > **[キーの割り当て]** の順にクリックして、**CompizConfig**設定マネージャでこれらのショートカットを変更できます。ズーム機能のショートカットは、**GNOME**コントロールセンターから使用可能なデスクトップ効果ツールで設定できます。

表 3.1 デスクトップ効果のショートカット

影響	Shortcut
すべてのデスクトップのパノラマビュー(デスクトップキューブ効果が有効な場合)	<Ctrl>+<Alt>+↓(左または右矢印を使用してスクロール)
デスクトップキューブを回転するか(デスクトップキューブ効果が有効な場合)、またはデスクトップを切り替えます(デスクトップウォール効果が有効な場合)。	<Ctrl>+<Alt>+←または<→>(デスクトップウォール効果が複数行にわたる場合に<↑>または<↓>キーを使用できます)
デスクトップキューブを手動で回転(デスクトップキューブ効果が有効な場合)	デスクトップで<Ctrl>+<Alt>左クリックし、マウスポインタをドラッグ
現在のアクティブウィンドウを開いたままで、デスクトップキューブを回転(デスクトップキューブ効果が有効な場合)、またはデスクトップの切り替え(デスクトップウォール効果が有効な場合)	<Ctrl>+<Alt>+<Shift>+←または<→
ウィンドウの切り替え(サムネイルビュー)	<Alt>+<Tab>
揺れるウィンドウ(揺れる効果が有効な場合)	ウィンドウを左クリックしてドラッグ
手動でズーム(画面ズームが有効な場合)	Superキー(Windowsキー)+スクロールホイールを上に移動
手動ズームアウト(画面ズームが有効な場合)	Superキー(Windowsキー)+スクロールホイールを下に移動
マウスポインタの下にある領域を拡大(領域ズームが有効な場合)	Shift、Superキー(Windowsキー)+スクロールホイールを上に移動

マウスポインタの下にある領域を縮小(領域ズームが有効な場合)

Shift、Superキー(Windowsキー)+スクロールホイールを下に移動

3.4 個人用

以降のセクションでは、パスワードやキーボードショートカットなど、GNOME デスクトップのいくつかのパーソナル機能を設定する方法について、例を紹介します。支援技術の設定については、第4章 支援技術 (89 ページ)を参照してください。

3.4.1 パスワードを変更する


セキュリティ上の理由から、ログインパスワードは時々変更することをお勧めします。パスワードを変更する:

- 1 [コンピュータ] > [コントロールセンター] > [パスワードの変更] の順にクリックします。
- 2 右上で、[パスワードの変更...] をクリックします。
- 3 古い(現在の)パスワードを入力します。
- 4 新しいパスワードを入力します。
- 5 もう一度入力して、新しいパスワードを確認したら、[パスワードの変更] をクリックします。

3.4.2 キーボードショートカットのカスタマイズ

キーボードのショートカット、つまりキーの組み合わせは、アクションを実行する通常の方法に代わるものです。さまざまなアクションに対して、キーボードのショートカットをカスタマイズできます。

キーボードのショートカットツールを開くには、[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [パーソナル] > [キーボードショートカット] の順に選択します。

 **3.14** キーボードのショートカットダイアログ



アクションのショートカットを変更するには、アクションを選択し、関連付けたいキーを押します。アクションに対するショートカットを無効にするには、アクションのショートカットをクリックして、<<—>キーを押します。

3.5 システム

次のセクションでは、言語設定、電源管理、優先アプリケーション、セッションおよびセッション共有の初期設定、Beagle検索オプション、オーディオ初期設定など、GNOMEデスクトップのシステム面の設定方法の例を紹介します。

3.5.1 言語設定の実行

SUSE Linux Enterprise Desktopは、さまざまな言語から選択した使用言語を設定できます。言語設定はダイアログやメニューの言語を決定し、キーボードや時計のレイアウトも決定します。

言語設定を指定するには、[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [システム] > [言語] の順にクリックし、ルートパスワードを入力します。

YaST言語モジュールが開きます。詳細については、第10章 *Changing Language and Country Settings with YaST* (↑導入ガイド)を参照してください。

3.5.2 ネットワークプロキシの設定

ネットワークプロキシ設定ツールでは、システムのインターネット接続方法を設定できます。デスクトップがプロキシサーバに接続するように設定し、サーバの詳細を指定できます。プロキシサーバは、別のサーバへのリクエストを傍受し、可能な場合はそのリクエストを実行します。プロキシサーバのドメインネームサービス(DNS)名、またはインターネットプロトコル(IP)アドレスを指定できます。DNS名はネットワーク上のコンピュータに対する固有のアルファベットの識別子です。IPアドレスはネットワーク上のコンピュータに対する固有の数字の識別子です。

[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [システム] > [ネットワークプロキシ] をクリックします。

図 3.15 ネットワークプロキシ設定ダイアログ

場所: デフォルト

プロキシの設定 無視するホスト

☐ インターネットに直接接続する(R)

☐ マニュアルでプロキシの設定を行う(M)

☐ 全てのプロトコルで同じプロキシを使う(U)

HTTP プロキシ(H): ポート: 8080

SSL プロキシ(S): ポート: 0

FTP プロキシ(F): ポート: 0

Socks ホスト(O): ポート: 0

☐ 自動的にプロキシの設定を行う(A)

自動設定する URL(U):

☒ システムのプロキシ設定を使用(Y)

それぞれのオプションの詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。

3.5.3 電源管理の設定

電源管理モジュールを使って、システムの節電オプションを管理することができます。特にラップトップの電池を節約するのに役立ちます。コンピュータを電源に接続して使用する場合には、節電に役立つ複数のオプションがあります。

スリープモードは、一定時間使用されていないコンピュータをシャットダウンします。電池を使用している場合でもAC電源を使用している場合も、コンピュータがどのくらいの時間使用されないままであればスリープ状態になるかを指定できます。コンピュータをシャットダウンせずにディスプレイをスリープ状態にして、表示に必要な電力を節約することもできます。

スリープモードは、コンピュータが電池で作動している場合は特に重要です。画面とコンピュータの両方が電池で作動している場合は、どちらか一方か両方をシャットダウンするとかなりの電池が節約できます。短時間でディスプレイをスリープモードにする方法は、よく使われています。さらにコンピュータが使われない状態にある場合もスリープモードになります。

モバイルコンピュータの電源管理モジュールでは、設定できるスリープモードまたはアクションがいくつかあります。

何もしない

コンピュータはシャットダウンせず、自動的に節電モードにも入りません。ラップトップの場合、ラップトップはカバーを閉じて通常は実行を続けます。

画面の消去(ブランク画面)

画面に花にも表示されず、電力消費を抑えることができます。

Suspend

サスペンドモードは、ディスプレイやハードディスクなどの電気消費量の多いコンポーネントを、RAMの内容を保存せずにオフにします。保存されていないデータは失われます。

休止

コンピュータはRAMの内容をハードディスクに保存して、シャットダウンします。コンピュータを再度オンにすると、保存データがRAMに復帰され、コンピュータが以前の状態に戻されます。休止状態にするには、コ

ンピュータにインストールされているRAMと同じ量の空きスペースがハードディスクに必要です。

電源管理モジュールを開くには、[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [システム] > [Power Management] をクリックします。

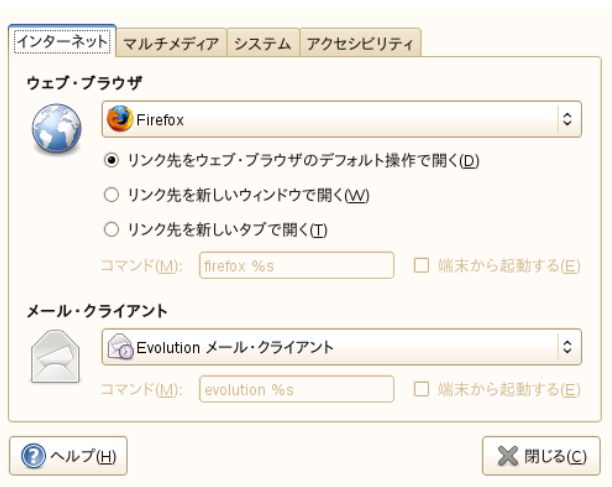
手順 3.4 コンピュータのスリープ設定の指定

- 1 使用している電源と同じタイプののタブをクリックします。コンピュータでAC電源を使用している場合は、[AC電源動作時] をクリックします。お使いのコンピュータがバッテリーを使用している場合は、[バッテリー電源動作時] をクリックします。コンピュータがAC電源とバッテリーの両方で動作している場合は、両方のタブの設定を行うことができます。
- 2 [アクション] パネルで、スライダを使用して、コンピュータがスリープモードになるまでの継続する無操作の時間を設定します。ふたを閉じたとき、およびバッテリー電力が限界近くまで低下したときに実行されるアクションを指定します。
- 3 [ディスプレイ] パネルで、ディスプレイがスリープモードになるまでの時間を指定します。ここでは、ディスプレイの輝度を落としたり、バックライトの明るさを低下させるなど、アイドルモードの他のオプションも設定できます。
- 4 [一般] タブで、電源ボタンを押したときのアクション、コンピュータを使用していないときのスリープのタイプなど、さらにオプションを設定できます。ここで使用できるオプションは、使用しているコンピュータのタイプ(ラップトップまたはその他のコンピュータ)によって異なります。
- 5 通知領域に電源アイコンをいつどのように表示するかも定義できます。
- 6 [スケジューリング] タブでは、指定の曜日の指定の時間にコンピュータの自動ウェイクアップを設定できます。
- 7 すべてのオプションが希望どおりに設定されたら、[閉じる] をクリックします。選択したオプションは、すぐに有効になります。

3.5.4 優先アプリケーションモジュールの設定

優先アプリケーションモジュールでは、インターネットのブラウザ、メールの送信、マルチメディアファイルの再生など、さまざまな一般的なタスクに対するデフォルトのアプリケーションを変更できます。

図 3.16 優先アプリケーション



- 1 [コンピュータ] > [コントロールセンター] > [優先アプリケーションの設定] の順にクリックします。
- 2 設定するアプリケーションのタイプのタブをクリックします。
- 3 ドロップダウンリストから、使用可能なアプリケーションを選択するか、アプリケーションの起動に使用するコマンドを入力します。
- 4 [閉じる] をクリックします。

変更はすぐに有効になります。

3.5.5 セッション共有環境設定

[Remote Desktop Preference(リモートデスクトップ設定)] ダイアログボックスでは、複数のユーザとGNOMEデスクトップセッションを共有し、セッション共有環境設定を実行できます。

重要項目: デスクトップセッション共有によるシステムセキュリティへの影響

デスクトップセッションを共有すると、セキュリティリスクが生じることがあります。可能な制約オプションを使用してください。オプションを調整してセキュリティレベルを低下させる必要がある場合は、できるだけ速やかに高いセキュリティレベルに切り替えてください。

- 1 [コンピュータ] > [コントロールセンタ] > [システム] > [リモートデスクトップ] の順にクリックします。

共有

☐ 他のユーザが自分のデスクトップを表示できる(V)

☒ 他のユーザがデスクトップを操作できる(A)

誰もあなたのデスクトップにはアクセスできません。

セキュリティ

☒ このマシンへの接続を毎回確認する(V)

☐ パスワードの入力を要求する(B):

☐ 他から接続できるように自動的にネットワークを設定する(C)

通知スペース

☐ 常にアイコンを表示する(W)

☒ 誰かが接続した時にのみアイコンを表示する(Q)

☐ アイコンを表示しない(N)

ヘルプ(H) 閉じる(C)

- 2 デスクトップセッションを他のユーザと共有するには、[Allow other users to view your desktop(他のユーザにデスクトップの表示を許可する)] を有効にします。リモートユーザからのすべてのキーボード、ポインタ、クリップボードイベントは無視されます。
- 3 他のユーザにリモートでセッションにアクセスさせて制御させるには、[Allow other users to control you desktop] を有効にします。下の強調表示さ

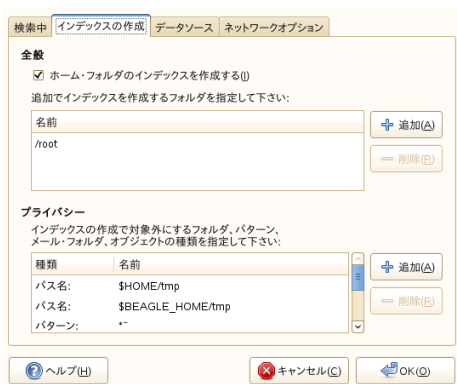
れたテキスト内のアドレスまたは名前をクリックして、電子メールでシステムアドレスをリモートユーザに送信します。

- 4 可能な場合はセキュリティオプションを使用します。 *[Ask you for confirmation(確認する)]* が有効な場合、リモートユーザはセッションに接続する前に確認が必要になります。セキュリティレベルを高めるには、*[Require the user to enter this password]* (認証を使用する場合)を有効にします。

3.5.6 Beagle設定での検索の設定

BeagleはGNOMEデスクトップで使用する検索エンジンです。Beagleがインデックスを付けるディレクトリを設定したり、検索後に表示する結果の数を指定したり、またはBeagle個人設定を変更するには、*[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [システム] > [検索設定]* の順にクリックします。

図 3.17 検索の初期設定



詳細については、6.4項「検索の環境設定」(112ページ)および6.6項「ファイルとディレクトリにインデックスをつけない」(116ページ)を参照してください。

3.5.7 ソフトウェア更新の設定

ソフトウェア更新ツールでは、更新チェック、自動更新、および更新通知の頻度を設定できます。ソフトウェア更新の初期設定ツールを起動するには、

> [コンピュータ] > [コントロールセンター] > [システム] [ソフトウェア更新] の順にクリックします。詳細については、「[Configuring the Software Update Applet](#)」(第6章 *Installing or Removing Software*, ↑導入ガイド)を参照してください。

3.5.8 YaSTを使った管理設定;

YaSTは、コントロールパネルからだけでなく、アプリケーションメニューから利用することもできます。YaSTの使用の詳細については、[導入ガイド](#)(↑導入ガイド)を参照してください。

支援技術

GNOMEユーザインタフェースには、多くのアクセシビリティ機能と支援技術が含まれています。GNOMEデスクトップのすべてのアプリケーションには、特別設計のアクセシビリティ機能が備わっています。多くのカスタマイズツールが用意されているので、身体に障害のあるユーザは、GNOMEデスクトップのすべての機能を使用できます。

この章では、視力の低下や運動能力の障害など、身体に障害を持つユーザの必要性を満たすように設計された複数の支援技術アプリケーションについて説明します。

4.1 支援技術の有効化

使用可能な多数のアクセス性ツールを使用するには、支援の技術サービスを有効にする必要があります。

- 1 [コンピュータ] > [コントロールセンター] > [個人] > [支援技術] の順にクリックします。
- 2 [支援技術を有効にする] を選択し、[閉じる] および [ログアウト] を押します。
- 3 再度ログインします。これで、支援技術サービスは有効になります。

4.2 一般的なアクセス性機能

さまざまな種類の障害を持つユーザーに役立つ多数の技術が存在します。ここでは、こうした技術について説明します。

詳細なガイドについては、<http://library.gnome.org/users/gnome-access-guide/>を参照してください。

4.2.1 デスクトップの外観の拡張

GNOMEデスクトップの外観をカスタマイズする方法は複数あります。それぞれの必要性に合わせてGNOMEデスクトップの外観をカスタマイズする複数の方法が用意されています。必要な表示設定になるように、さらにはテーマに代わる方法として、さまざまなアプリケーションおよびデスクトップをカスタマイズできます。詳細については、第3章 設定のカスタマイズ(49 ページ)を参照してください。

デスクトップのフォント設定

デスクトップおよびデスクトップの背景で、デフォルトのフォントの種類およびサイズに問題がある場合は、それぞれの必要性に合わせてフォントの設定をカスタマイズできます。

フォントを変更するには、[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ルック&フィール] > [外観] の順に選択します。[フォント] タブには、次のオプションが表示されます。

アプリケーションフォント

[アプリケーション] では、GNOME準拠アプリケーションに関連付けられたウィンドウおよびダイアログに表示されるテキストなど、デスクトップに表示されるテキストのデフォルトフォントを選択します。

文書のフォント

[ドキュメント] では、ドキュメントの表示に使用するフォントを選択します。

デスクトップフォント

[デスクトップ] では、デスクトップの背景でのみ表示されるテキストに使用するフォントを選択します。

ウィンドウタイトルフォント

[ウィンドウのタイトル] では、ウィンドウのタイトルバー領域に表示されるテキストに使用するフォントを選択します。

固定幅フォント

[固定幅のフォント] では、ドキュメントの編集に使用するフォントを選択します。

描画の種類

デスクトップのフォントのレンダリング方法を指定するために、次のいずれかを選択します。

- モノクロ、
- 最適なシェイプ、
- 最適なコントラスト、
- または *Subpixel Smoothing* (サブピクセルのスモージング)

大きなフォントを使用した場合、ファイルマネージャやヘルプブラウザなどのアプリケーションでペインサイズを変更することが必要になる場合があります。

デフォルトでは、GNOMEアプリケーションは、外観ツールで指定したデフォルトのフォントを使用します。一部のアプリケーションでは、このデフォルトのフォントをカスタマイズできます。

デスクトップのコントラスト

デスクトップのコントラストに問題がある場合は、コントラストを変更できます。

コントラストテーマを変更するには、[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ルック&フィール] > [外観] の順に選択します。[テーマ] タブには、複数の高および低コントラストテーマが含まれています。

デスクトップの背景色を単色に変更するには、[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ルック&フィール] > [外観] > [背景] の順に選択します。

- 使用可能な壁紙から背景色を選択します。
- [色] を「単色」に設定します。
- それぞれの必要性を満たす背景色を選択します。

拡大版デスクトップ

デスクトップの印刷サイズに問題がある場合は、[拡大版] テーマを選択できます。拡大版デスクトップを設定するには、[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ルック&フィール] > [外観] > [テーマ] の順にクリックし、[拡大版] を選択します。

デスクトップおよびウィンドウ枠で使用するフォントのサイズを大きくするには、[フォントの適用] をクリックします。

ファイルマネージャやヘルプブラウザなど、ペインを使用するアプリケーションを使用している場合は、拡大表示に対応するためにペインのサイズを変更することが必要になる場合があります。ファイルマネージャやヘルプブラウザなど、ペインを使用するアプリケーションを使用している場合は、拡大表示に対応するためにペインのサイズを変更することが必要になる場合があります。

4.3 動作の障害

動作の障害にはさまざまな原因が考えられます。筋肉のコントロールが不十分であったり、筋肉が脆弱であったりすると、標準的なキーボードやマウスデバイスを使用することが困難になる場合があります。たとえば、2つのキーを同時に入力できない人や、キーを押すときや離すときに複数のキーを押したり、何度もキーを押してしまう人がいます。片方の手しか使用できない人は、キーボードやマウスの操作に苦労することがあります。

4.3.1 マウスの動作

マウスの動作の設定

左利き用のマウス

右利き用のマウスで使用に問題がある場合、マウスの設定を左利き用に変更できます。左利き用にマウスを設定するには、[コンピュータ] > [コントロールセンタ] > [ハードウェア] > [マウス] > [一般] の順に選択し、左利きのマウスの向きを選択します。このオプションを選択すると、左マウスボタンの機能と右マウスボタンの機能が入れ替わります。

ダブルクリックの動作

ダブルクリックに問題がある場合、ダブルクリックの第1のクリックと第2のクリック間のシステムが待機する時間を増やせます。たとえば、ダブルクリックのタイムアウト設定が0.4秒である場合、ダブルクリックの第1のクリックから0.4秒以内に第2のクリックを行う必要があります。第2のクリックが第1のクリックから0.4秒を超えて行われた場合は、2回のシングルクリックとして解釈されます。

ダブルクリックのタイムアウト設定を指定するには、[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ハードウェア] > [マウス] > [一般] の順に選択して、[ダブルクリックの間隔] を指定します。スライダの下の電球をダブルクリックして、設定を確認します。指定した間隔内にダブルクリックの2回のクリックを行うと、電球が光り、電球の周囲が黄色く輝きます。指定した間隔内にダブルクリックしない場合は、電球はまったく点灯しません。タイムアウト設定を増やして、再度試みてください。電球が点灯すれば、タイムアウト設定はそれぞれの必要性に適しています。

マウスの速度と感度

ポインタの動作に問題がある場合は、ポインタの速度と感度を変更できます。ポインタの速度と感度を設定するには、[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ハードウェア] > [マウス] > [一般] の順に選択します。

[加速] スライダーを使用して、マウスを動かすときのマウスポインタの速度を指定します。スライダーを右に移動すると速度が大きくなり、左に移動すると速度が小さくなります。

マウスの動きに対するマウスポインタの感度を [感度] スライダーで指定します。スライダーを右に移動すると感度が大きくなり、左に移動すると感度が小さくなります。

[ドラッグアンドドロップ] セクションでスライダーを使用して、操作がドラッグアンドドロップ操作として解釈されるためにポインタによりアイテムを移動する必要がある距離を変更します。

低い加速設定を選択すると、マウスまたは他のポインタデバイスを移動している物理的な速度に近い速度でマウスポインタが移動します。この場合、同じ画面領域に対して、マウスを物理的により長い距離移動する必要があります。高い設定を選択すると、マウスを移動している物理的な速度より速い速度でポインタが移動します。この場合、同じ画面領域に対して、マウスを物理的により短い距離移動する必要があります。

アクセス可能なマウス

マウスの初期設定ツールを使用して、マウスアクセス性オプションを設定します。マウスの設定ツールを起動するには、[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ハードウェア] > [マウス] の順に選択します。[アクセス性] タブを選択することにより、アクセス性オプションを有効にできます。

アクセス可能なキーボード

キーボードツールを使用して、キーボードのアクセシビリティオプションを指定します。このツールを起動するには、[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ハードウェア] > [キーボード] の順に選択します。[アクセス性] タブを選択することにより、アクセス性オプションを有効にできます。

4.3.2 GNOME画面キーボード

GNOMEオンスクリーンキーボードでは、デスクトップに仮想キーボードが表示されます。仮想キーボードを操作するために、標準のマウスポインタまた

は代替のポインティングデバイスを使用できます。GOKでは、次の種類のキーボードが表示されます。

- コンポーザキーボードを使用して、テキストを作成できます。英数字を入力するには、コンポーザキーボードで文字を選択します。
- ダイナミックキーボードは、デスクトップで現在実行中のアプリケーションに合わせて変化します。たとえばオンスクリーンキーボードは、デスクトップで実行中のアプリケーションまたはアプリケーションに含まれるメニューに対応するキーを含むダイナミックキーボードを生成します。

オンスクリーンキーボードを起動するには、[コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [ツール] > [オンスクリーン・キーボード] の順に選択します。

注記

GNOMEオンスクリーンキーボードを使用するには、4.1項「支援技術の有効化」(89 ページ)の説明に従って支援機能を有効にする必要があります。

オンスクリーンキーボードユーザの場合は、アプリケーションウィンドウによりオンスクリーンキーボードの表示が邪魔されるので、全画面モードでアプリケーションを使用することはできません。

オンスクリーンキーボードアプリケーションとともに使用するためにウィンドウのサイズを変更するには、次の手順に従います。

- 1 アプリケーションの全画面モードを有効にしないでください。
- 2 アプリケーションウィンドウにフォーカスを移動します。
- 3 <F10>を押すと、アプリケーションが最大化します。

4.4 Orca

Orcaは、視覚障害を持つユーザのための柔軟かつ拡張可能で強力な支援技術です。音声合成、ブライユ点字、および拡大鏡をさまざまに組み合わせたOrcaスクリーンリーダーとOrca拡大アプリケーションを使用することで、視力に制限があるか視力を喪失したユーザがGNOMEデスクトップおよび関連するアプ

リケーションを使用することが可能になります。スクリーンリーダはまたブライユ点字もサポートしています。

Orcaを起動するには、[コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [ツール] > [Orca] の順に選択します。Orcaを初めて起動するときに、自動的にセットアップモードになり、ここで必要に応じて設定できます。セットアップでは、読み上げおよび点字サポート、単語またはキーのエコー、および画面拡大鏡などの機能を有効にできます。

パート II. *GNOME* ユーザガイド

ネットワークリソースへのアクセス

デスクトップから、ファイルやディレクトリ、およびリモートホスト上の特定のサービスにアクセスしたり、自分のファイルやディレクトリをネットワーク中の他のユーザに利用させることができます。SUSE® Linux Enterprise Desktopは、ネットワーク共有リソースのアクセスと作成のために次の方法を提供しています。

ネットワーク参照

Nautilusをファイルマネージャとして利用することにより、共有リソースやサービスを参照できます。詳細については、5.3項「ネットワーク共有へのアクセス」(101 ページ)を参照してください。

混在環境でのフォルダの共有

Nautilusを使って、ネットワーク上の他のユーザとファイルやフォルダを共有できます。任意のWindowsまたはLinuxワークステーションの他のユーザがデータを参照したり、書き込みしたりできるようにします。詳細については、5.4項「フォルダの共有」(103 ページ)を参照してください。

Windowsファイルの管理

SUSE Linux Enterprise Desktopは、既存のWindowsネットワークと統合するように設定できます。この場合、LinuxコンピュータはWindowsクライアントのように動作します。Windowsクライアントと同様に、すべてのアカウント情報をActive Directoryドメインコントローラから取得します。詳細については、5.5項「Windowsファイルの管理」(104 ページ)を参照してください。

Windowsネットワークプリンタの設定とアクセス

GNOMEコントロールセンターから、Windowsネットワークプリンタを設定できます。設定方法の詳細については、5.6項「Windowsネットワークプリンタの設定とアクセス」(106 ページ)を参照してください。

5.1 ネットワークに接続

有線接続または無線接続でネットワークに接続できます。ネットワーク接続状況を確認するには、[コンピュータ] をクリックします。メインメニューの [状態] エリアで、[ネットワーク] アイコンがネットワーク接続状態を示します。このアイコンをクリックし、YaSTネットワーク設定モジュールを開きます。このモジュールを使用してネットワーク設定方法を設定するか、ネットワークカードの設定を編集することができます。詳細については、項「YaSTによるネットワーク接続の設定」(第20章 ネットワークの基礎, ↑管理ガイド)を参照してください。

5.2 ファイル共有とネットワーク参照に関する一般的な注意

お使いのコンピュータやネットワークで、ファイル共有やネットワーク参照機能の利用可能範囲は、ネットワーク構造とコンピュータの設定によって異なります。ネットワーク構造またはコンピュータを設定する前に、ネットワーク構造でファイル共有やネットワーク参照機能がサポートされているかどうか、また、企業のセキュリティポリシーで許可されているかどうか、システム管理者に確認してください。

Windows共有用のSMB参照やリモートサービス用のSLP参照などのネットワーク参照は、コンピュータがネットワーク上のすべてのクライアントにメッセージをブロードキャストできるかどうか大きく依存しています。コンピュータは、ブロードキャストメッセージとクライアントからの応答によって、利用できるネットワーク共有やサービスを検出します。ブロードキャストを効果的に行うためには、お使いのコンピュータが、他のブロードキャスト対象コンピュータと同じサブネット上に存在する必要があります。ネットワーク参照が利用できない場合、または検出された共有やサービスが期待どおりの場合、システム管理者に問い合わせ、適切なサブネットに接続されているかどうか確認してください。

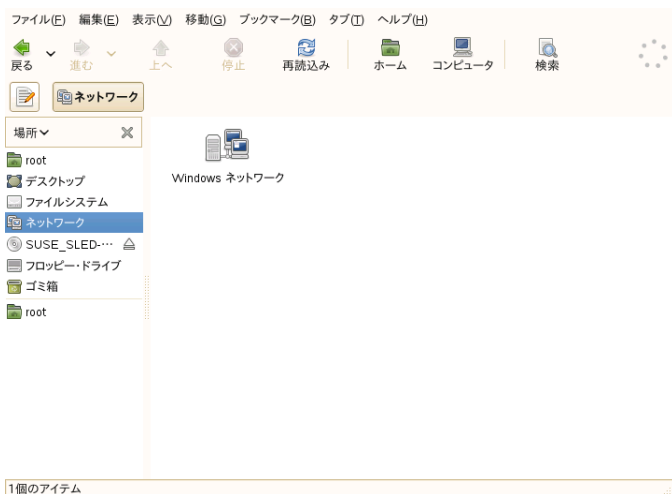
ネットワーク参照を利用するには、ネットワークの詳細、または共有およびサービスの可用性を知らせるネットワークメッセージを送受信できるように、いくつかのネットワークポートを開いておく必要があります。標準のSUSE Linux Enterprise Desktopは高いセキュリティレベルを維持するように設定されており、インターネットからコンピュータを保護するファイアウォールを備えています。ファイアウォール設定を調整するには、内部ゾーンにインタフェースを配置するようにシステム管理者に依頼するか、ファイアウォールを完全に停止する必要があります(企業のセキュリティポリシーに基づきます)。ファイアウォールが動作している状態でネットワーク参照を行う場合、セキュリティ設定によりネットワーク参照が禁止されていることを示すNautilusメッセージが表示されます。

5.3 ネットワーク共有へのアクセス

ネットワーク上のワークステーションのフォルダを共有するように設定できます。通常、ファイルとフォルダにはユーザがリモートアクセスできることを示す記号が付いています。これらは、「ネットワークシェア(共有)」と呼ばれます。お使いのシステムがネットワーク共有にアクセスできるように設定されている場合、ローカルコンピュータ上にあるファイルやフォルダと同じように、ファイルマネージャを使って共有ファイルやフォルダにアクセスしたり、参照したりできます。共有フォルダに対するアクセスレベル(読み込み専用なのか、書き込みアクセスも可能なのか)は、共有フォルダの所有者がユーザに割り当てた権限によって異なります。

ネットワークにアクセスするには、Nautilusを起動して[場所] ペインで[ネットワーク] をクリックします。アクセスできるサーバとネットワークがNautilusに表示されます。共有フォルダにアクセスするサーバまたはネットワークをダブルクリックします。ユーザ名とパスワードを入力してサーバへの承認が求められる場合があります。一般的なネットワーク共有フォルダは、SFTPでアクセス可能なリソース(SSH File Transfer Protocol)またはWindows共有フォルダです。

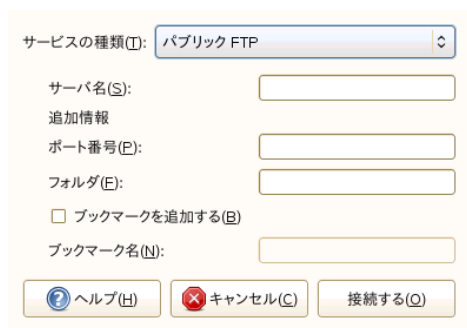
図 5.1 ネットワークファイルブラウザ



5.3.1 ネットワークの場所の追加

- 1 [コンピュータ] > [Nautilusファイルブラウザ] > [ファイル] > [サーバに接続] の順にクリックします。

図 5.2 [サーバに接続] ダイアログボックス



- 2 サービスタイプを選択し、次にそのサービスタイプに必要な情報を指定します。

- 3 接続をブックマークに追加するには、[ブックマークの追加] をオンにして、その名前を入力します。
- 4 [接続] をクリックします。

5.4 フォルダの共有

企業環境では、ドキュメントの共有および交換は必須の機能です。Nautilusでは、ファイル共有機能を利用して、LinuxユーザとWindowsユーザ間でファイルやフォルダを共有できます。

5.4.1 コンピュータの共有を有効にする

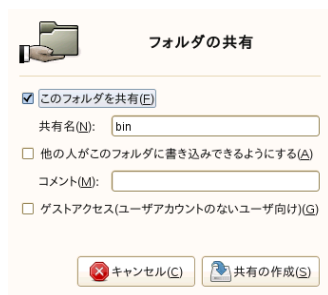
フォルダを共有するには、コンピュータの共有を有効にする必要があります。共有を有効にする

- 1 メインメニューからYaSTを起動します。
- 2 rootパスワードを入力します。
- 3 [Network Services] (ネットワークサービス)をクリックします。
- 4 [Windows Domain Membership] (Windowsドメインメンバーシップ)をクリックします。
- 5 [ユーザにディレクトリの共有を許可する] をクリックして、次に [OK] をクリックします。

5.4.2 フォルダの共有を有効にする

フォルダのファイル共有を有効にする

- 1 Nautilusを起動します。
- 2 フォルダを右クリックして、コンテキストメニューから [共有オプション] を選択します。



- 3 [このフォルダを共有] を選択します。
- 4 他のユーザからのフォルダへの書き込みを許可する場合は、[他の人がこのフォルダに書き込みできるようにする] を選択します。ユーザアカウントを使用しないアクセスを許可するには、[ゲストアクセス] をオンにします。
- 5 [共有の作成] をクリックします。
- 6 共有に必要なパーミッションがフォルダにない場合は、ダイアログが表示されます。[自動的にパーミッションを追加する] をクリックします。

フォルダが共有されていることを示すために、フォルダアイコンが変化します。

重要項目: Sambaドメイン参照

Sambaドメイン参照は、システムのファイアウォールが正しく設定されている場合にのみ利用できます。ファイアウォール全体を無効にするか、または参照インタフェースを内部ファイアウォールゾーンに指定します。設定方法の詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

5.5 Windowsファイルの管理

SUSE Linux Enterprise DesktopコンピュータをActive Directoryクライアントとして使用することにより、Windowsサーバ上のデータを参照、表示、および操作できます。次に代表的な例を示します。

Nautilusを使ったWindowsファイルの参照

Nautilusのネットワーク参照機能を使って、Windowsデータを参照することができます。

Nautilusを使ったWindowsデータの表示

Nautilusを利用して、Linuxディレクトリを参照する場合と同様に、Windowsフォルダの内容を参照できます。Windowsサーバー上にファイルやフォルダを作成することもできます。

GNOMEアプリケーションを使ったWindowsデータの操作

多くのGNOMEアプリケーションでは、Windowsサーバ上のファイルを開いて作業を行い、再びWindowsサーバに保存することができます。

シングルサインオン

Nautilusを含むGNOMEアプリケーションは、シングルサインオンをサポートしています。つまり、Webサーバ、プロキシサーバ、またはグループウェアサーバ(例:MS Exchange)などの他のWindowsリソースにアクセスする場合は、再び認証を受ける必要がありません。これらすべての認証は、ログイン時に入力したユーザ名とパスワードを使用してバックグラウンドで自動的に行われます。

Nautilusを使ってWindowsデータにアクセスするには、次の手順に従ってください。

- 1 Nautilusを起動して、[場所] ペインで [ネットワーク] をクリックします。
- 2 [Windowsネットワーク] をダブルクリックします。
- 3 アクセスするコンピュータがあるワークグループのアイコンをダブルクリックします。
- 4 コンピュータのアイコンをクリックして(必要に応じて認証を受けて)、次にそのコンピュータ上の目的の共有フォルダに移動します。

Nautilusを使ってWindowsユーザフォルダ中にフォルダを作成する場合は、Linuxフォルダを作成する場合と同じ手順で作業を行います。

5.6 Windowsネットワークプリンタの設定とアクセス

ネットワークに接続し、Windows Active Directoryサーバの認証を受けたら、プリンタなどの企業リソースにアクセスできます。GNOMEでは、LinuxクライアントからWindowsネットワークプリンタに印刷できるように設定できます。

LinuxクライアントからWindowsネットワークプリンタを利用できるように設定するには、次の手順に従います。

- 1 メインメニューから [コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ハードウェア] > [印刷] の順にクリックして、GNOMEコントロールセンターを起動します。
- 2 [新しいプリンタ] を選択します。
- 3 [Windows Printer via SAMBA (SAMBA経由でのWindowsプリンタ)] を選択します。
- 4 [参照] でSMBブラウザを起動し、ワークグループ、サーバ、およびプリンタを選択します。認証資格情報を入力するか、プリンタにアクセスするたびに認証を求められるようにします。[転送] をクリックします。
- 5 プリンタメーカーとプリンタモデルをリストから選択し、ドライバを選択します。通常は、[推奨] と記されたものを選択すると最良の結果が得られます。[進む] を選択して進み、プリンタの名前、説明、および場所を指定します。[適用] をクリックします。
- 6 プリンタを追加するにはroot権限が必要です。したがって、プリンタの追加のための最後のステップとしてrootパスワードを入力しなければなりません。

設定したWindowsネットワークプリンタに印刷するには、利用可能なプリンタリストから該当するプリンタを選択します。

Beagleを使った検索

Beagleは、検索要求に対応するために個人情報領域(通常はホームディレクトリ)にインデックスを付ける検索ツールです。Beagleを利用すれば、ドキュメント、電子メールと添付ファイル、Web履歴、IM/IRCチャット、アドレス帳の連絡先、カレンダーの予定、ノート、ソースコード、画像、音楽/ビデオファイル、アーカイブとその内容、およびアプリケーションなど、さまざまなものを検索することができます。

6.1 Beagleの使用

Beagleを使用するには、[コンピュータ]をクリックして[検索]に検索する文字列を入力し、<Enter>キーを押します。結果は[デスクトップ検索]ダイアログボックスに表示されます。

[コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [システム] > [検索]の順にクリックするか、ターミナルからbeagle-searchを使用して起動することで、デスクトップ検索にアクセスすることもできます。

注記: 検索サービスの有効化

Beagleを使用するには、検索サービスを有効にする必要があります。無効になっている場合は、検索結果の代わりに、[検索サービスが実行していません]ページが表示されます。[ログイン時に自動的にサービスを起動する]をクリックし、[検索サービスを起動する]をクリックして、サービスを永久に有効にします。

図 6.1 デスクトップ検索ダイアログボックス



結果のリストはファイルを開くのに使用したり、メールで転送したり、ゴミ箱に移したり、ファイルマネージャで表示できます。結果リストの項目を右クリックして、オプションを選択します。結果リストのアイテムで使用可能なオプションは、そのファイルの種類により決定します。リストのファイルを選択するとファイルのプレビュー、タイトル、パス、最終修正またはアクセス日などの情報が表示されます。

図 6.2 ファイルを選択した [デスクトップ検索] ダイアログボックス



[検索対象] ドロップダウンを使用して、検索を特定のタイプのソース(アプリケーション、ドキュメント、画像、電子メール、Webページ、連絡先など)に限定します。[表示] メニューでは名前、関連性、またはファイルの最終修正日にしたがって、結果リストの項目がソートできます。

6.2 検索のヒント

- 検索する用語には、大文字と小文字の両方を使用できます。検索処理において、大文字と小文字は区別されません。
- オプションの用語を検索するには、「OR」を使用します(例、apples OR oranges)。

重要項目

オプションの検索語を指定する場合、ORは大文字にする必要があります。

- 検索する用語を除外するには、負の記号(-)を除外したい用語の前に入力します(例、「apples -oranges」と入力すると、「apples」を含むが「oranges」を含まない結果を検索します)。
- 検索する用語の基本形が検索時に使用されます(たとえば、「driving」は「drive」、「drives」、および「driven」と一致します)。
- 完全に一致するフレーズまたは単語を検索するには、引用符(")でそのフレーズまたは単語を囲みます。
- “a”、“the”、および“is”などの一般的な語は無視されます。

6.3 Property Search(プロパティ 検索)の実行

デフォルトでは、Beagle検索ツールは文書のテキストおよびそのメタデータにある用語を検索します。特定のプロパティにある単語を検索するには、*property: query*を使用します。たとえば、「author:john」と入力すると、著者のプロパティに「John」という単語がリストされたファイルを検索します。

表 6.1 サポートされているプロパティキーワード

キーワード	適用項目	プロパティ
album	音楽ファイル	アルバム名
artist	音楽ファイル	アーティスト名
著者	ドキュメント	ドキュメントの著者（ドキュメントの作成者と同じ）
作成者	ドキュメント	ドキュメントの作成者、 <code>dc:creator</code> にマップされる(例:PDFファイルの作成者)
電子メール	アドレス帳	電子メールアドレス

キーワード	適用項目	プロパティ
emblem	ファイル	Nautilusで 사용되는エンブレム
extension または ext	ファイル	ファイルの拡張子(例、extension:jpeg or ext:mp3)。拡張子なしのファイルを検索する場合は、extension:またはext:を使用します。
ジャンル	音楽ファイル	音楽のジャンル
imagecomment	画像ファイル	IPTCキャプションまたはExifコメントのある画像中のコメントや説明
imagemodel	JPEGイメージ	カメラの型式(例:EOS2D)
imagetag	画像ファイル	F-スポットおよびDigikam画像タグとIPTCキーワード
inarchive	ファイル	アーカイブ内部のファイルに対して inarchive:trueを使用します。
inattachment	ファイル	電子メールの添付ファイルに対して inattachment:trueを使用します。
mailfrom	[電子メール]	送信者名
mailfromaddr	[電子メール]	送信者の電子メールアドレス
mailinglist	[電子メール]	メーリングリストのID(例:dashboard-hackers.gnome.org)
mailto	[電子メール]	受信者名
mailtoaddr	[電子メール]	受信者の電子メールアドレス

キーワード	適用項目	プロパティ
speakingto	チャット	話者
title	ドキュメント	ドキュメントのタイトル、dc:titleにマップされる(例:HTMLファイルのtitleタグ)

プロパティ検索は、6.2項「検索のヒント」(109ページ)で説明されているルールに従って実行されます。除外クエリまたはORクエリとしてプロパティ検索を使用できます。また、フレーズは、「クエリ」として使用できます。たとえば、次の行は、「apple」という単語を含むすべてのPDFまたはHTML文書、著者名に「john」を含むすべてのPDFまたはHTML文書、および書名に「oranges」という単語を含まないすべてのPDFまたはHTML文書を検索します。

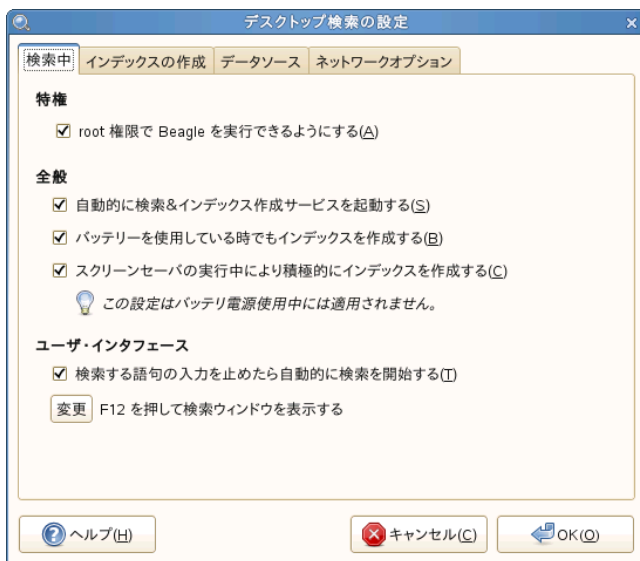
```
apple ext:pdf OR ext:html author:john -title:oranges
```

6.4 検索の環境設定

〔デスクトップ検索の設定〕ダイアログボックスを使用して、Beagle検索の初期設定を設定します。

- 1 [コンピュータ] > [コントロールセンター] > [システム] > [検索設定] の順にクリックします。

また、〔デスクトップ検索〕ダイアログボックスで [検索] > [初期設定] の順にクリックして開くこともできます。



2 次のオプションから選択します。

自動的に検索&インデックス作成サービスを起動する: セッションへのログイン時に検索デーモンを自動的に開始する場合に、このオプションを選択します。Beagleの検索機能を使用する場合、このデーモンが動作していなければなりません。

バッテリーを使用している時でもインデックスを作成する: コンピュータがバッテリー動作中に、データのインデックスを作成する場合、このオプションを選択します。このオプションを無効にすると、ラップトップコンピュータでSUSE Linux Enterprise Desktopを利用している場合に、バッテリー動作中はインデックスの作成を中止したいような場合に役立ちます。

スクリーンセーバの実行中により積極的にインデックスを作成する: スクリーンセーバを実行している場合、コンピュータがアクティブに使用されておらず、より多くのリソースをインデックス処理に充てることが可能であると考えられます。このオプションは、コンピュータがバッテリー動作中の場合には適用されません。

検索する語句の入力を止めたら自動的に検索を開始する: デスクトップ検索ウィンドウの [検索] フィールドへの文字列の入力を止めたらずぐに検

索を開始する場合に、このオプションを選択します。このオプションは、メインメニューの [検索] フィールドには関係ありません。

検索ウィンドウを表示するホットキー: <Ctrl>+<Alt>+ファンクションキーの組み合わせを指定して、[デスクトップ検索] ウィンドウを表示する入力キーを選択できます。キーは、デフォルトの入力キーです。

- 3 [OK] をクリックします。

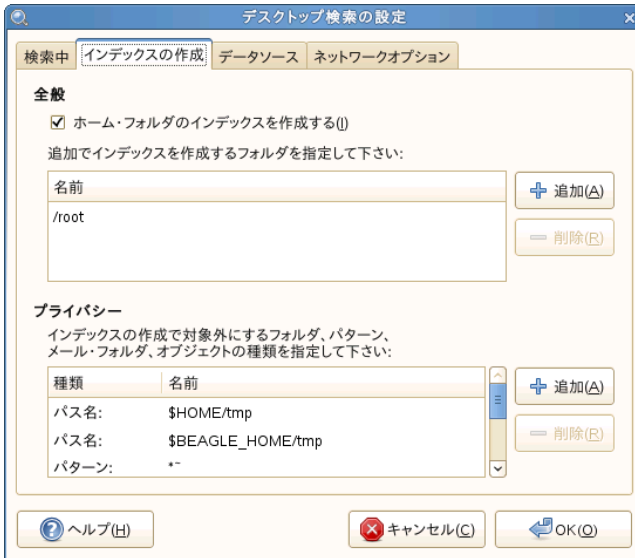
6.5 他のディレクトリのインデックス作成

Beagleのデフォルトでは、ホームディレクトリのインデックスしか作成されません。ホームディレクトリのインデックスを作成しない場合は、[デスクトップ検索の設定] ダイアログボックスの [インデックスの作成] タブの [ホームフォルダのインデックスを作成する] オプションの選択を解除してください。他のフォルダのインデックスも作成する場合は、次の手順に従ってください。

- 1 [コンピュータ] > [その他のアプリケーション] > [システム] > [検索設定] の順にクリックします。

また、[デスクトップ検索] ダイアログボックスで [検索] > [初期設定] の順にクリックして開くこともできます。

- 2 [インデックス] タブをクリックします。



- 3 ダイアログボックスの [全般] セクションの [追加] をクリックします。
- 4 インデックスを作成するディレクトリを選択して、[開く] をクリックします。
少なくとも、追加するディレクトリの読み込みパーミッションがあることを確認します。
- 5 インデックスを作成するディレクトリのリストからディレクトリを削除するには、目的のディレクトリをリストから選択して [削除] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。

6.6 ファイルとディレクトリにインデックスをつけない

[検索の初期設定] ダイアログボックスを使用して、インデックスを付けないリソースを指定することができます。これらのリソースには、ディレクトリ、パターン、メールフォルダ、オブジェクトの種類が含まれます。

- 1 [コンピュータ] > [その他のアプリケーション] > [システム] > [検索設定] の順にクリックします。
- 2 [インデックス] タブをクリックします。
- 3 [プライバシー] セクションの [追加] をクリックします。
- 4 インデックス付けから除外するリソースを選択し、そのリソースまたはファイル名のパターンへのパスを指定します。
- 5 [OK] を2回クリックします。

6.7 インデックスするデータソースの選択

Beagleでは、さまざまなデータソース、さまざまなアプリケーション(たとえばEvolutionメール、メモおよびタスク、Pidgin会話、Tomboyメモ、Nautilusメタデータなど)からのデータ、ファイル、アプリケーション、文書、マニュアルページなどにインデックスを設定できます。Beagleでインデックスを設定するデータソースを選択するには、次の手順に従います。

- 1 [コンピュータ] > [その他のアプリケーション] > [システム] > [検索設定] の順にクリックします。
- 2 [データソース] タブをクリックします。
- 3 インデックスを設定するデータソースをチェックします。
- 4 [OK] をクリックします。

5 <Alt> + <F2>を押し、

```
beagled --replace
```

と入力した後<Enter>キーを押して検索サービスを再起動して変更を有効にします。

6.8 Beagleの無効化

低性能のコンピュータでは、Beagleで使用するリソースが多くなりすぎる場合があります。Beagleを無効にするには、[コンピュータ] > [コントロールセンター] > [システム] > [検索設定] > [検索中] の順にクリックし、[自動的に検索&インデックス作成サービスを起動する] オプションのチェックをオフにします。

また、/etc/beagle/crawl-rules/ディレクトリで構成ファイルを編集することによりBeagleを無効にできます。Beagleを無効にするには、オプションCRAWL_ENABLEDをno in all crawl-*files in the directoryに設定します。

6.9 詳細情報

Beagleの詳細については、次のWebサイトで入手可能です。

- Beagleホームページ [<http://beagle-project.org/>]

プリンタの管理

SUSE® Linux Enterprise Desktopでは、コンピュータがプリンタに直接接続されているか、またはネットワークを介してリモートで接続されているかに関係なくドキュメントを簡単に印刷できます。本章では、SUSE Linux Enterprise Desktopでプリンタを設定し、印刷ジョブを管理する方法を説明します。

7.1 プリンタのインストール

プリンタをインストールする前に、rootパスワードを把握して、プリンタ情報を用意しておく必要があります。プリンタに接続する方法に応じて、プリンタURI、TCP/IP アドレスまたはホスト、およびプリンタ用のドライバも必要になる場合があります。SUSE Linux Enterprise Desktopには、さまざまなプリンタドライバが同梱されています。使用するプリンタのドライバが見つからない場合は、プリンタのメーカーのWebサイトで確認してください。

7.1.1 ネットワークプリンタのインストール

- 1 [コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ハードウェア] > [印刷] > [新規] > [プリンタ] の順にクリックします。
- 2 リストから次のエントリのいずれかを選択します。

AppSocket/HP JetDirect

コンピュータではなくネットワークに直接接続されているプリンタ。

インターネット印刷プロトコル(ipp)

CUPSが動作している同一のネットワーク上で別のLinuxシステムに接続されているプリンタ、またはIPPを使用する別のオペレーティングシステムに設定されているプリンタ。

LPD/LPRホストまたはプリンタ

TCP/IPネットワーク経由でアクセスできる別のUNIXシステムに接続されているプリンタまたはプリンタサーバ。

SAMBA経由でのWindowsプリンタ

SMBネットワーク上でプリンタを共有する別のシステムに接続されたプリンタです(たとえば、Microsoft Windowマシンに接続されているプリンタ)。設定の詳細については、5.6項「Windowsネットワークプリンタの設定とアクセス」(106 ページ)を参照してください。

- 3 プリンタの情報を指定したら、**[進む]** をクリックします。
- 4 該当する場合は、このプリンタのプリンタドライバを選択し、**[適用]** をクリックします。ディスクからプリンタドライバをインストールするか(**PPD** ファイルの提供)、プリンタメーカーのWebサイトにアクセスして最新のドライバをダウンロードすることもできます(ダウンロードするプリンタドライバを検索)。
- 5 **[プロパティ]** ダイアログボックスで適切なプリンタオプション(説明や場所など)を設定して、**[適用]** をクリックします。
- 6 rootパスワードを入力して **[認証]** をクリックします。

インストールされたプリンタが、プリンタパネルに表示されます。これで、どのアプリケーションからもプリンタに印刷できます。

7.1.2 ローカルプリンタのインストール

- 1 コンピュータにプリンタのケーブルを接続し、プリンタの電源を入れます。

プリンタのダイアログボックスが開きます。表示されない場合は、**[コンピュータ]** > **[コントロールセンター]** > **[ハードウェア]** > **[印刷]** > **[新規]** > **[プリンタ]** の順にクリックして開きます。

- 2 [ローカルプリンタ] をクリックし、[進む] をクリックして次に進みます。
- 3 このプリンタのプリンタドライバを選択し、[適用] をクリックします。
ディスクからプリンタドライバをインストールするか([PPDファイルの提供] をクリック)、プリンタメーカーのWebサイトにアクセスして最新のドライバをダウンロードします([ダウンロードするプリンタドライバを検索] をクリック)。
- 4 [プロパティ] ダイアログボックスで適切なプリンタオプション(説明や場所)を設定し、[閉じる] をクリックします。
- 5 rootパスワードを入力します。

インストールされたプリンタが、[プリンタ] ダイアログボックスに表示されます。これで、どのアプリケーションからでもプリンタに印刷できます。

7.2 プリンタ設定の変更

- 1 [コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ハードウェア] > [印刷] の順にクリックします。
- 2 変更するプリンタをダブルクリックします。
- 3 プロパティを変更して、[閉じる] をクリックします。

7.3 印刷ジョブのキャンセル

- 1 [コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ハードウェア] > [印刷] の順にクリックします。
- 2 ジョブを送信したプリンタを右クリックし、[プリントキューの表示] をクリックします。
- 3 印刷ジョブを右クリックして、[キャンセル] をクリックします。

印刷ジョブがリストに表示されない場合は、すでに印刷されている可能性があります。

7.4 プリンタの削除

- 1 [コンピュータ] > [コントロールセンター] > [ハードウェア] > [印刷] の順にクリックします。
- 2 削除したいプリンタを右クリックし、[削除] を選択します。[OK] をクリックして、確定します。
- 3 ルートパスワードを入力し、[認証] をクリックします。

ユーザデータのバックアップ

ユーザデータのバックアップスケジュールされたバックアップまたは要求に応じたバックアップを作成し、このデータの以前の状態を再生できます。

8.1 バックアップの作成

バックアップの作成

- 1 [コンピュータ] > [他のアプリケーション] で、[ツール] セクションの [バックアップ管理設定] をクリックします。

2

The screenshot shows a backup configuration dialog with three tabs: 一般 (General), 例外 (Exceptions), and 詳細 (Details). The 一般 tab is active. It contains sections for 'データの選択' (Data Selection) with radio buttons for 'ホームディレクトリのバックアップ' (selected) and '選択したファイルのみバックアップ'; '保存先' (Storage Destination) with a dropdown menu showing '2.0 GBメディア'; 'スケジュール' (Schedule) with a frequency dropdown set to '毎日' (Daily) and a time picker set to '3:00 AM'; and a checkbox for 'すぐにバックアップ' (Backup now) which is unchecked. At the bottom right are 'キャンセル(C)' (Cancel) and '保存' (Save) buttons.

[一般] タブで、次のオプションを設定します。

Data Selection(データの選択)

バックアッププロセスに含めるファイルおよびディレクトリを選択します。

Storage Destination(ストレージの宛先)

別個のメディア上にあるバックアップの場所を選択します。たとえば、外部ハードディスクやUSBフラッシュドライブなどを指定できます。

スケジュール

頻度と時間を設定します。

必要に応じて、[すぐにバックアップ] を有効にし、データの最初のスナップショットを直ちに作成できます。

- 3 [対象外] タブで、バックアップから除外したいファイルとフォルダを追加します。
- 4 [詳細] タブで、[一般] タブで設定したバックアップデバイス(例: USBフラッシュドライブ)に接続するときの処理を指定します

ディスク容量が不足する場合は、古いバックアップの削除を有効にします。

- 5 [保存] をクリックして設定ダイアログを閉じます。

注記: スケジュールに関する情報

バックアップの日付をスケジュールするために、このツールではユーザの **crontab** を使用します。**crontab** の詳細については、**crontab** マニュアルページを参照してください。

8.2 データの復元

データの以前の状態を復元するには、次の手順に従います。

- 1 [コンピュータ] > [他のアプリケーション] の順に選択し、[ツール] セクションで [バックアップマネージャ復元] をクリックします。
- 2 復元するファイルとバージョンを選択します。
- 3 [復元] をクリックします。



GNU Licenses

This appendix contains the GNU General Public License Version 2 and the GNU Free Documentation License Version 1.2.

GNU General Public License

Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc. 59 Temple Place - Suite 330, Boston, MA 02111-1307, USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The 「Program」, below, refers to any such program or work, and a 「work based on the Program」 means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term 「modification」.) Each licensee is addressed as 「you」.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.
- c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

- a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and 「any later version」, you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM “AS IS” WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the 「copyright」 line and a pointer to where the full notice is found.

one line to give the program's name and an idea of what it does.
Copyright (C) yyyy name of author

This program is free software; you can redistribute it and/or
modify it under the terms of the GNU General Public License
as published by the Free Software Foundation; either version 2
of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful,
but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of
MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the
GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License
along with this program; if not, write to the Free Software
Foundation, Inc., 59 Temple Place - Suite 330, Boston, MA 02111-1307, USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author
Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details
type `show w'. This is free software, and you are welcome
to redistribute it under certain conditions; type `show c'
for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use
may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a 「copyright disclaimer」 for the program, if necessary.
Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright
interest in the program `Gnomovision'
(which makes passes at compilers) written
by James Hacker.

signature of Ty Coon, 1 April 1989
Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may
consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Lesser General Public
License [<http://www.fsf.org/licenses/lgpl.html>] instead of this License.

GNU Free Documentation License

Version 1.2, November 2002

Copyright (C) 2000,2001,2002 Free Software Foundation, Inc. 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

PREAMBLE

The purpose of this License is to make a manual, textbook, or other functional and useful document “free” in the sense of freedom: to assure everyone the effective freedom to copy and redistribute it, with or without modifying it, either commercially or noncommercially. Secondly, this License preserves for the author and publisher a way to get credit for their work, while not being considered responsible for modifications made by others.

This License is a kind of 「copyleft」, which means that derivative works of the document must themselves be free in the same sense. It complements the GNU General Public License, which is a copyleft license designed for free software.

We have designed this License in order to use it for manuals for free software, because free software needs free documentation: a free program should come with manuals providing the same freedoms that the software does. But this License is not limited to software manuals; it can be used for any textual work, regardless of subject matter or whether it is published as a printed book. We recommend this License principally for works whose purpose is instruction or reference.

APPLICABILITY AND DEFINITIONS

This License applies to any manual or other work, in any medium, that contains a notice placed by the copyright holder saying it can be distributed under the terms of this License. Such a notice grants a world-wide, royalty-free license, unlimited in duration, to use that work under the conditions stated herein. The 「Document」, below, refers to any such manual or work. Any member of the public is a licensee, and is addressed as 「you」. You accept the license if you copy, modify or distribute the work in a way requiring permission under copyright law.

A 「Modified Version」 of the Document means any work containing the Document or a portion of it, either copied verbatim, or with modifications and/or translated into another language.

A 「Secondary Section」 is a named appendix or a front-matter section of the Document that deals exclusively with the relationship of the publishers or authors of the Document to the Document's overall subject (or to related matters) and contains nothing that could fall directly within that overall subject. (Thus, if the Document is in part a textbook of mathematics, a Secondary Section may not explain any mathematics.) The relationship could be a matter of historical connection with the subject or with related matters, or of legal, commercial, philosophical, ethical or political position regarding them.

The 「Invariant Sections」 are certain Secondary Sections whose titles are designated, as being those of Invariant Sections, in the notice that says that the Document is released under this License. If a section does not fit the above definition of Secondary then it is not allowed to be designated as Invariant. The Document may contain zero Invariant Sections. If the Document does not identify any Invariant Sections then there are none.

The 「Cover Texts」 are certain short passages of text that are listed, as Front-Cover Texts or Back-Cover Texts, in the notice that says that the Document is released under this License. A Front-Cover Text may be at most 5 words, and a Back-Cover Text may be at most 25 words.

A 「Transparent」 copy of the Document means a machine-readable copy, represented in a format whose specification is available to the general public, that is suitable for revising the document straightforwardly with generic text editors or (for images composed of pixels) generic paint programs or (for drawings) some widely available drawing editor, and that is suitable for input to text formatters or for automatic translation to a variety of formats suitable for input to text formatters. A copy made in an otherwise Transparent file format whose markup, or absence of markup, has been arranged to thwart or discourage subsequent modification by readers is not Transparent. An image format is not Transparent if used for any substantial amount of text. A copy that is not 「Transparent」 is called 「Opaque」.

Examples of suitable formats for Transparent copies include plain ASCII without markup, Texinfo input format, LaTeX input format, SGML or XML using a publicly available DTD, and standard-conforming simple HTML, PostScript or PDF designed for human modification. Examples of transparent image formats include PNG, XCF and JPG. Opaque formats include proprietary formats that can be read and edited only by proprietary word processors, SGML or XML for which the DTD and/or processing tools are not generally available, and the machine-generated HTML, PostScript or PDF produced by some word processors for output purposes only.

The 「Title Page」 means, for a printed book, the title page itself, plus such following pages as are needed to hold, legibly, the material this License requires to appear in the title page. For works in formats which do not have any title page as such, 「Title Page」 means the text near the most prominent appearance of the work's title, preceding the beginning of the body of the text.

A section 「Entitled XYZ」 means a named subunit of the Document whose title either is precisely XYZ or contains XYZ in parentheses following text that translates XYZ in another language. (Here XYZ stands for a specific section name mentioned below, such as 「Acknowledgements」, 「Dedications」, 「Endorsements」, or 「History」.) To 「Preserve the Title」 of such a section when you modify the Document means that it remains a section 「Entitled XYZ」 according to this definition.

The Document may include Warranty Disclaimers next to the notice which states that this License applies to the Document. These Warranty Disclaimers are considered to be included by reference in this License, but only as regards disclaiming warranties: any other implication that these Warranty Disclaimers may have is void and has no effect on the meaning of this License.

VERBATIM COPYING

You may copy and distribute the Document in any medium, either commercially or noncommercially, provided that this License, the copyright notices, and the license notice saying this License applies to the Document are reproduced in all copies, and that you add no other conditions whatsoever to those of this License. You may not use technical measures to obstruct or control the reading or further copying of the copies you make or distribute. However, you may accept compensation in exchange for copies. If you distribute a large enough number of copies you must also follow the conditions in section 3.

You may also lend copies, under the same conditions stated above, and you may publicly display copies.

COPYING IN QUANTITY

If you publish printed copies (or copies in media that commonly have printed covers) of the Document, numbering more than 100, and the Document's license notice requires Cover Texts, you must enclose the copies in covers that carry, clearly and legibly, all these Cover Texts: Front-Cover Texts on the front cover, and Back-Cover Texts on the back cover. Both covers must also clearly and legibly identify you as the publisher of these copies. The front cover must present the full title with all words of the title equally prominent and visible. You may add other material on the covers in addition. Copying with changes limited to the covers, as long as they preserve the title of the Document and satisfy these conditions, can be treated as verbatim copying in other respects.

If the required texts for either cover are too voluminous to fit legibly, you should put the first ones listed (as many as fit reasonably) on the actual cover, and continue the rest onto adjacent pages.

If you publish or distribute Opaque copies of the Document numbering more than 100, you must either include a machine-readable Transparent copy along with each Opaque copy, or state in or with each Opaque copy a computer-network location from which the general network-using public has access to download using public-standard network protocols a complete Transparent copy of the Document, free of added material. If you use the latter option, you must take reasonably prudent steps, when you begin distribution of Opaque copies in quantity, to ensure that this Transparent copy will remain thus accessible at the stated location until at least one year after the last time you distribute an Opaque copy (directly or through your agents or retailers) of that edition to the public.

It is requested, but not required, that you contact the authors of the Document well before redistributing any large number of copies, to give them a chance to provide you with an updated version of the Document.

MODIFICATIONS

You may copy and distribute a Modified Version of the Document under the conditions of sections 2 and 3 above, provided that you release the Modified Version under precisely this License, with the Modified Version filling the role of the Document, thus licensing distribution and modification of the Modified Version to whoever possesses a copy of it. In addition, you must do these things in the Modified Version:

- A.** Use in the Title Page (and on the covers, if any) a title distinct from that of the Document, and from those of previous versions (which should, if there were any, be listed in the History section of the Document). You may use the same title as a previous version if the original publisher of that version gives permission.
- B.** List on the Title Page, as authors, one or more persons or entities responsible for authorship of the modifications in the Modified Version, together with at least five of the principal authors of the Document (all of its principal authors, if it has fewer than five), unless they release you from this requirement.
- C.** State on the Title page the name of the publisher of the Modified Version, as the publisher.
- D.** Preserve all the copyright notices of the Document.
- E.** Add an appropriate copyright notice for your modifications adjacent to the other copyright notices.
- F.** Include, immediately after the copyright notices, a license notice giving the public permission to use the Modified Version under the terms of this License, in the form shown in the Addendum below.
- G.** Preserve in that license notice the full lists of Invariant Sections and required Cover Texts given in the Document's license notice.
- H.** Include an unaltered copy of this License.
- I.** Preserve the section Entitled 「History」, Preserve its Title, and add to it an item stating at least the title, year, new authors, and publisher of the Modified Version as given on the Title Page. If there is no section Entitled 「History」 in the Document, create one stating the title, year, authors, and publisher of the Document as given on its Title Page, then add an item describing the Modified Version as stated in the previous sentence.
- J.** Preserve the network location, if any, given in the Document for public access to a Transparent copy of the Document, and likewise the network locations given in the Document for previous versions it was based on. These may be placed in the 「History」 section. You may omit a network location for a work that was published at least four years before the Document itself, or if the original publisher of the version it refers to gives permission.
- K.** For any section Entitled 「Acknowledgements」 or 「Dedications」, Preserve the Title of the section, and preserve in the section all the substance and tone of each of the contributor acknowledgements and/or dedications given therein.
- L.** Preserve all the Invariant Sections of the Document, unaltered in their text and in their titles. Section numbers or the equivalent are not considered part of the section titles.
- M.** Delete any section Entitled 「Endorsements」. Such a section may not be included in the Modified Version.
- N.** Do not retile any existing section to be Entitled 「Endorsements」 or to conflict in title with any Invariant Section.
- O.** Preserve any Warranty Disclaimers.

If the Modified Version includes new front-matter sections or appendices that qualify as Secondary Sections and contain no material copied from the Document, you may at your option designate some or all of these sections as invariant. To do this, add their titles to the list of Invariant Sections in the Modified Version's license notice. These titles must be distinct from any other section titles.

You may add a section Entitled 「Endorsements」, provided it contains nothing but endorsements of your Modified Version by various parties--for example, statements of peer review or that the text has been approved by an organization as the authoritative definition of a standard.

You may add a passage of up to five words as a Front-Cover Text, and a passage of up to 25 words as a Back-Cover Text, to the end of the list of Cover Texts in the Modified Version. Only one passage of Front-Cover Text and one of Back-Cover Text may be added by (or through arrangements made by) any one entity. If the Document already includes a cover text for the same cover, previously added by you or by arrangement made by the same entity you are acting on behalf of, you may not add another; but you may replace the old one, on explicit permission from the previous publisher that added the old one.

The author(s) and publisher(s) of the Document do not by this License give permission to use their names for publicity for or to assert or imply endorsement of any Modified Version.

COMBINING DOCUMENTS

You may combine the Document with other documents released under this License, under the terms defined in section 4 above for modified versions, provided that you include in the combination all of the Invariant Sections of all of the original documents, unmodified, and list them all as Invariant Sections of your combined work in its license notice, and that you preserve all their Warranty Disclaimers.

The combined work need only contain one copy of this License, and multiple identical Invariant Sections may be replaced with a single copy. If there are multiple Invariant Sections with the same name but different contents, make the title of each such section unique by adding at the end of it, in parentheses, the name of the original author or publisher of that section if known, or else a unique number. Make the same adjustment to the section titles in the list of Invariant Sections in the license notice of the combined work.

In the combination, you must combine any sections Entitled 「History」 in the various original documents, forming one section Entitled 「History」; likewise combine any sections Entitled 「Acknowledgements」, and any sections Entitled 「Dedications」. You must delete all sections Entitled 「Endorsements」.

COLLECTIONS OF DOCUMENTS

You may make a collection consisting of the Document and other documents released under this License, and replace the individual copies of this License in the various documents with a single copy that is included in the collection, provided that you follow the rules of this License for verbatim copying of each of the documents in all other respects.

You may extract a single document from such a collection, and distribute it individually under this License, provided you insert a copy of this License into the extracted document, and follow this License in all other respects regarding verbatim copying of that document.

AGGREGATION WITH INDEPENDENT WORKS

A compilation of the Document or its derivatives with other separate and independent documents or works, in or on a volume of a storage or distribution medium, is called an “aggregate” if the copyright resulting from the compilation is not used to limit the legal rights of the compilation’s users beyond what the individual works permit. When the Document is included in an aggregate, this License does not apply to the other works in the aggregate which are not themselves derivative works of the Document.

If the Cover Text requirement of section 3 is applicable to these copies of the Document, then if the Document is less than one half of the entire aggregate, the Document’s Cover Texts may be placed on covers that bracket the Document within the aggregate, or the electronic equivalent of covers if the Document is in electronic form. Otherwise they must appear on printed covers that bracket the whole aggregate.

TRANSLATION

Translation is considered a kind of modification, so you may distribute translations of the Document under the terms of section 4. Replacing Invariant Sections with translations requires special permission from their copyright holders, but you may include translations of some or all Invariant Sections in addition to the original versions of these Invariant Sections. You may include a translation of this License, and all the license notices in the Document, and any Warranty Disclaimers, provided that you also include the original English version of this License and the original versions of those notices and disclaimers. In case of a disagreement between the translation and the original version of this License or a notice or disclaimer, the original version will prevail.

If a section in the Document is Entitled 「Acknowledgements」, 「Dedications」, or 「History」, the requirement (section 4) to Preserve its Title (section 1) will typically require changing the actual title.

TERMINATION

You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Document except as expressly provided for under this License. Any other attempt to copy, modify, sublicense or distribute the Document is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

FUTURE REVISIONS OF THIS LICENSE

The Free Software Foundation may publish new, revised versions of the GNU Free Documentation License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns. See <http://www.gnu.org/copyleft/>.

Each version of the License is given a distinguishing version number. If the Document specifies that a particular numbered version of this License 「or any later version」 applies to it, you have the option of following the terms and conditions either of that specified version or of any later version that

has been published (not as a draft) by the Free Software Foundation. If the Document does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published (not as a draft) by the Free Software Foundation.

ADDENDUM: How to use this License for your documents

To use this License in a document you have written, include a copy of the License in the document and put the following copyright and license notices just after the title page:

```
Copyright (c) YEAR YOUR NAME.  
Permission is granted to copy, distribute and/or modify this document  
under the terms of the GNU Free Documentation License, Version 1.2  
or any later version published by the Free Software Foundation;  
with no Invariant Sections, no Front-Cover Texts, and no Back-Cover Texts.  
A copy of the license is included in the section entitled "GNU  
Free Documentation License".
```

If you have Invariant Sections, Front-Cover Texts and Back-Cover Texts, replace the “with...Texts.” line with this:

```
with the Invariant Sections being LIST THEIR TITLES, with the  
Front-Cover Texts being LIST, and with the Back-Cover Texts being LIST.
```

If you have Invariant Sections without Cover Texts, or some other combination of the three, merge those two alternatives to suit the situation.

If your document contains nontrivial examples of program code, we recommend releasing these examples in parallel under your choice of free software license, such as the GNU General Public License, to permit their use in free software.